

関東氷上郷友会

昭和58年4月 第14号

山
ぎ
ら



文
苑





渡辺紙工業株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番24号 Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目22番12号 Tel 849—6611(代)
〃 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町2192番 Tel 0471—96—1721(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 1 丁目20番 4 号<久月ビル 8F> Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目13番地 Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番24号 Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡県粕屋郡久山町猪野小柳884番 1 号 Tel 09297—6—2211(代)



渡辺製袋株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番24号 Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 1 丁目20番 4 号<久月ビル 8F> Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番24号 Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町4938番地 Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草1438—1 番地 Tel 0794—95—0257(代)

色 春 波 丹

近舞線の工事進む春日町中山付近



柏原音頭

作詞 中井 健治
作曲 橋本 喬雄
振付 西川霞富美

一、花にネー花にあこがれ

あの娘にあこがれチョイトネー

招く振袖／＼桜模様

ホンニソヤ／＼ネー

二、燃えてネー燃えて色増す

谷間のもみちチョイトネー

舞うて散りくる／＼ぼたんなべ

ホンニソヤ／＼ネー

三、夢にネー夢に入船

宝の塔にチョイトネー

宵の明星がちらほらと

ホンニソヤ／＼ネー

四、かけたネーかけた情の

木の根の橋にチョイトネー

うたや瀬音の／＼音頭とる

ホンニソヤ／＼ネー

山ざる 第14号 目次

表紙画「花菖蒲」常岡文亀	(伴仲信次氏蔵)	
丹波春色・柏原音頭		1
このごろ思うこと	伴仲 信次	2
祝寿者に記念品贈呈		4
足立前会長らに感謝状		5
フィラデルフィア印象記	坂本 重雄	6
氷上への郷愁	足立 順治	9
『オラトリオ合唱団』を指揮して	笹倉 強	14
『竜虎八天狗』の旅	常岡 幹彦	15
私の斗病記録	谷垣 正雄	18
健康のよろこび	足立 正	21
常岡さん・西崎さんのこと	宮野 近	21
田中篤郎氏、CM製作で大賞独占		23

このごろ思うこと

伴仲信次



あと何年生きられる?……
これからのどう生きるか、こ
んなことを考えてみなければ
ならない年になりました。

喜寿を迎えて、昨年は子供
達や友達からそれに孫からま
でお祝をもらって冒頭のようなことが漠然と頭をよぎりました。

余生は好きなことをして過したい!、なんて考えた時代もあり
ました。

土に親しみ、昔取った杵づかで野菜物など自給自足し、余分が
出来れば親しい人に分け、晴耕雨読の生活の中で好きな謡曲や旅
行を楽しみたい……なんて夢もありましたが、現実にはなかなかき
びしくて、馬令は容赦なく重ねますが、余生と言えるような環境
はいつのことやら……。あるいは余生なしの人生に終るかも知れ
ないような昨今で、本業以外に色々な仕事や役を仰せつかり、日
夜追い廻されている現状です。

還暦を迎えた年の正月に、生まれて初めて母から手紙をもらい



祝寿者に記念品贈呈

祝寿者の方々。向って左から上田、植村、足立の三氏。

昭和五十七年度祝寿会は総会に先立ち東京浅草の『麦とろ』で開かれ、本年度の祝寿者六氏のうち上田鉄太郎、足立順治、植村章子の三氏が出席され、伴仲会長より祝詞と記念品（郵送）目録を贈呈し拍手を浴びた。上田氏から謝辞があり。有田喜一名誉会長から、長寿を保ち本会のためにも御協力下さるよう祝詞を述べて祝福した。

祝寿者からの謝詞

上田鉄太郎氏

過日の氷上郷友会総会には出席者も多く盛大でした。私たち高齢者には結構なお祝品を頂戴いたし誠に有難うございました。小生少々健康を害しております、現在通院しておりますので失礼しております。

東後一美さん

この度は突然伊万里焼一個ご惠贈下され、誠に有難く御礼申し上げます。小生は若き時代は氷上にて教えを賜わり、その後は各地を見学、先年の大戦では持家を灰尽に帰し、以来その日暮しの現状で郷里への報恩にも欠ける次第なるに拘らず、この度美事な御祝品を頂き重ねて御礼申し上げます。

植村章子さん

この度は今寿の御祝をして頂き、立派な記念品をお贈り下され、たゞ／＼恐縮いたしております。今回は、徒らに年を重ねましてお恥しく存じますが、御厚情に応え、残りの少ない人生を一日／＼大切に生きてゆきたく念願致しております。

服部栄さん

この度はご鄭重な祝寿会にお招きをいただきましたが、身体不自由のため、欠席のやむなき旨ご返事をさしあげましたところ、結構な祝



感謝状を受ける足立前会長（向って左）

寿の品をわざわざご
恵送下され、御礼の
申しあげようもござ
いません。ありがと
うございました。

由良洋太郎氏

本日陶芸センター

伊万里焼から結構な
焼物をいたゞきま
した。実は私は退職
後、東京に住み、こ
の地（所沢市）に住
む経歴も浅く知人も
少ないので、先年郷
友会を脱退し、現在
会費も納めていない
身分につき、祝寿品
を辞退すべきだと存
じましたが、この度
は半寿の祝として有
難くお受けいたしま
す。ご高配有難うご

さいました。

後藤豊次氏

祝寿会にお招きに預りましたが、体調思わしからず勝手いたしました
ところ、結構なお品ご恵与下され身にあまる光栄に存じます、当地
（鎌倉）へ転居後日も浅く、郷友会のために何等力も致さず、失礼を
のみにたしております。お祝を頂だくに値しない者ですが、せつかく
のご芳志有難く拝受致し、厚く御礼申し上げます。

足立前会長らに感謝状

昭和五七年度総会席上、十年間の長きに亘って本会の発展に寄与さ
れた足立前会長、渡辺、松山前副会長、小谷前財務理事に対し、その
在任中の功績をたたえる感謝状を、伴仲会長よりそれ／＼贈られた。
会員盛大な拍手をもって感謝の意を表した。

感謝状

足立三治殿

あなたは本会々々長として十余年の永きに涉り常に熱烈

な郷土愛をもって本会の運営に尽力され、機関誌「山ざる」の発行、長寿会員の祝寿、会員増強、同好会の育成等々本会の基盤確立と発展に貢献されました。茲に会員の総意により深甚なる感謝の意を表します

昭和五十七年十一月十二日

関東水上郷友会会長 伴 伸 信 次

副会長・渡辺金三殿 同文
副会長・松山幸逸殿 同文

感謝状

小 谷 正 己 殿

あなたは本会常任理事として多年に渉って財務の確立に尽力され本会の基盤確立と事業の運営発展に貢献されました
これ偏えにあなたの熱烈な郷土愛によるもので感謝に堪えません
茲に会員総意により深甚なる謝意を表します

昭和五十七年十一月十二日

関東水上郷友会会長 伴 伸 信 次

フィラデルフィア印象記

在静岡 坂 本 重 雄

(柏原)

さる九月上旬の四日間、ワシントンのヒルトンホテルで開かれた国際労働法・社会保障学会（四年に一回）に出席したあと、文部省在外研究員としてフィラデルフィア市に二カ月間滞在した。経済不況下の労使関係と団体交渉制度の最近の動向を研究するため、ペンシルバニア大学の客員教授としての生活をはじめた。

一九四〇年以来四二年ぶりに失業率一〇%台となったアメリカ、とりわけ東部地区では秋の中間選挙をひかえて日本の自動車輸出、農産物保護主義を批判する対日強硬論が昂まっていた。ペンシルバニア大学はその昔、野口英世が病理学を学んだ学校で、ハーバード大など八つの私立名門校アイビリーグの一つで学生数は二万人、多くの学部をかかえるが、私の仕事に関係するのは歴史のあるロウ・スクール（法学系大学院）、近年評価の高いウオートン・ビズネススクール、そして三〇〇万冊の蔵書を有する中央図書館である。

文献資料を通じての調査研究の合間に、ワシントンやフィラデルフィアの労働行政機関、労働組合への訪問調査も心がけた。これらの成果は専門誌で発表する予定であるが、ここでは調査研究以外で印象の深かったことについて御紹介しておきたい。

一、アメリカ独立記念の町——フィラデルフィア

合衆国誕生の地フィラデルフィア市は、ニューヨークとワシントン
の間、ペンシルバニア州東南部にあり、人口一八二万（周辺地域を
含めると四七二万）、合衆国第4位の都会である。自動車、鉄鋼、機
械などの第二次産業をかかえて不況にあえぐ東部地区の典型であるこ
とに加え、有色人種の人口比四〇％、彼らの失業率は一八％（市平均
で一一％、九月現在）で治安状態が悪く、夜間は特に危険であり、大
学キャンパス内でも強盗、婦女暴行が頻発している。

アルバイト収入に依存して勉学するのを原則とする学生にとって雇
用状況が厳しく、授業料、部屋代、食費の急激な上昇が留学生間の話



オマハの「少年の町」を訪問した筆者。

題となる。アメリカ東部にある有名大学といえども生活条件や治安の
悪さの故に、南部や中西部の大学への転学を決意する留学生が増えて
きている。

フィラデルフィアは独立と建国の歴史にまつわる史蹟として、独立
記念館、自由の鐘、最初の議事堂、裁判所、銀行など古い建物が保存
されており、植民地時代から独立当時のアメリカ史を研究するには最
適の地と思われる。しかし日本人が少ない街で、大学内でも英語や経
営学を専攻する学生だけが增えているのは残念に思う。美術館、科学
博物館など週末によく見て回り、よくもこんなに集めたものだと思っ
ている。

二、史蹟、スポーツの見学、想い出の人々

ウィリアム・ベンが宗教の自由を求め、クエーカー教徒を引きつれ
て移住し、市制を開いてちょうど三〇〇年という。市の歴史協会が三
〇〇年祭行事で、連続歴史講座を開いており、その席上、「ウィリヤ
ム・ベン」（岩波新書・青版53）の著者で日本皇太子の家庭教師であ
ったヴァイニング夫人と面談する機会を得た。

またジョージ・ワシントンの率いる独立軍がイギリス軍に追われて
露営し、三千人の兵士が飢えと寒さで死んだと伝えられるヴァレー・
フォージュ公園、「独立宣言」で有名な古戦場のゲティスバーグ公園
など、かなり計画をたてて見て回った。

テニスコートはじめ、大学の体育館や体育施設はよく利用し、体育
研究機関をはじめ、体育系サークルの運営状況は日頃の関心事でもあ
ることから若干の資料を集めた。人気のあるプロ野球、アメリカン・

フットボールの見物にも出かけた。ペン大が今年はアイビーリーグでハーバード、ダートマスと並んでアメリカン・フットボールで同率首位となったが、学生間でも最も人気のある種目である。

フィラデルフィア・フィリーズ（ナショナル・リーグ）はセントルイス・カーディナルスに首位を奪われて二位に終わったが、八〇年度に世界選手権をとったこのチームの大黒柱、左投手のステイブ・カールトンは今年も二三勝一敗の成績をあげ、プロ野球史上初の四度目の最優秀投手賞を獲得した。このカールトン投手と十月二日の夜、市内のレストランで偶然に知り合い歓談したことは楽しい思い出である。このスポーツ界の英雄はマスコミ嫌いで人と話合わない男として知られていることを後で知り、彼と一緒にとった写真を記念に保存することにした。

フィラデルフィアの秋は例年になく暑かったようである。十月下旬になつて朝夕冷えこみ、道路わきの街路樹の枯葉が風に舞っていた。蒐集した文献資料を大型の郵便袋八つに分散して日本へ送り、引越し準備に追われた。

三、オマハからキングストンを訪問

十月二日、セントルイスを経てネブラスカ州オマハ市に到着。ここには静岡大学の姉妹校であるネブラスカ大学オマハ校がある。二年前フルブライト研究員で来日し、静岡大学に三カ月滞在したディマルティノノ教授が空港まで出迎えてくれた。来日中研究協力者として家族同志をふくめて付合った間柄であるが、三日間私宅で大変にお世話になった。

静岡大学からの留学生一五名、国際交流委員の教授たち十数名の参加による歓迎会、副学長や国際部長らが夫妻同伴で主席された深更までのパーティなどに招待され、大いに見聞を広めることができた。

フィラデルフィアと異なり、中西部にはこれがアメリカだと思わせる広大な土地と空間があり、みんなの話す言葉に落着きがあり、急に英会話能力がレベルアップしたかのような錯覚におち入るのが不思議だった。

オマハは、大陸横断鉄道が完成した地でユニオン・パンフィックの本社があり、大規模農業投資の關係からか大手の保険会社の本社の幾つかがあるが、人口はネブラスカ州最大とはいえ三十万人程度である。フラナガン神父の創設した「少年の町」は見ごたえがあり、インデアンのスー族と対抗したクッカー將軍の兵營、住居、そしてフォード大統領の住居跡の公園などを存分に案内してもらう。昨年死亡した元映画俳優、グレースケリー・モナコ王妃はフィラデルフィアの出身、そしてヘンリー・フォнда、マローン・ブランドはオマハの出身だそうである。

四、「森と湖の国」での国際交流

オマハ空港で知人たちとの別れを惜しみ、デトロイトを経てカナダのトロントに一泊する。早期六時に一〇人乗りの小型機にのって朝日の登ってくるオンタリオ湖上空をとび、キングストンに着く。統一カナダの最初の首都であるが人口五万人の静かな大学町で、直ちにクイーズ大学を訪問する。「森と湖の国」という表現がびつたりするキングストンに三日間滞在する。二つの労働法のセミナーに参加したが、

高校教育は低調といわれるこの国でもトップクラスのこの大学に入学してくる大学生はアメリカと同じくよく勉強していることが、図書館の利用、講義、セミナーでの出席と発言、質問から理解せられ、とび入りの私に向つていきなり女子学生が質問をあげてくる。この大学の法学部、研究所では、事前に提出した調査・質問事項にそつて、計七名の専門家と各一時間余の面接・討議の時間を設けてもらった。

フィラデルフィア、オマハ、キングストンの各大学をはじめ、機関や労働行政機関の人々、そして、タクシーの運転手、機上で知合つた看護婦さんなど多くの人々から予想以上の御好意をうけた。国際緊張が昂まつているにも関わらず、かえつて国際交流を促進する必要性が叫ばれている。

日本の研究者や文化人で外国留学を試みた者の数は戦後だけでも相当数にのぼるが、日本の大学は外国人の受入れでは極めて立ち遅れている。対日批判的である貿易と同様で、国際交流の面でも輸出超過である。「お世話になる」だけという後進性を脱却できないことを反省し、受け入れ態勢強化への取組みが、防衛力の増強などよりも遙かに緊急の課題であることを強く印象づけられた。(静岡大学教授)

氷上への郷愁

足立 順治

(氷上・井中)

(一)

明治三五年二月二八日、これが私の戸籍上の生年月日であります。そのころの氷上の山奥の百姓の親父さんにしてみれば、役場への届けなどはルーズであつたかもしれませぬエー。私はその日より二、三日、あるいはもっと早い日にこの世の空気にふれたのかもしれない。……などと、時々考えることがあります。その頃はすべて旧暦でありまして、お正月もちゃんと旧のお正月を祝つていたんですもの。

当時、氷上郡幸世村井中区奥地（オキチ）と通称（トウシヨウ）いわれていたところで、大きなお宮さんがありまして、その森といいますが、山裾から奥へ千メートルほど行つた所にまた御霊さん（ミタマ）というホコラがあり、さらに千メートルほど南の所に家の数が九戸の開けた集落があり、奥地と呼ばれていた所なんです、そこで生まれたのださうです。

その御霊さんには大きな大きな杉の木が一本ニョッキリと生えていて、樹令は千年の余にもなるのでしょうか、私ども子供が五人も手をつながなければ抱えられない木だったことを覚えています。

小学校は氷上郡立幸世尋常小学校でありまして、家から一里半以

☆

☆

☆

上、道草などしながらかなりの時間をかけて毎日往復したのでございます。

尋常一年生の入学の日に雨が降りまして、傘がどうしても見つからず、下駄箱のそばで泣いていましたら、姉の鶴江が何かと世話を焼いてくれました。学校の隣りの村役場のゴウちゃんに傘を持ってきてくれ、泣き泣き帰路についたことを覚えています。

また細見先生という髭を生したこわい先生が、いつも竹の鞭を持って何だかんだと生徒を叱り飛ばしていたことも思い出します。

私がリンゴという果物を見たのは二・三才の頃で、ハシカで暗い中の間で寝ていまして、死ぬか生きるかの大へんな峠を越して目覚めた時のことでありました。母が「これリンゴというもんじゃでえー」といって香りのいい赤い大きな丸い実を私の頬にあててくれたことを、はつきりと覚えていいます。母の真からの愛情というものを、ひしひしと感じ、それが今もほのぼのと私の胸に残っているのです。

(一)

広い庭の石垣の上に古い柿の木がありまして、甘い柿の実がたくさんなるのですが、これまた何といえますか、なつかしい思い出の木でありまして、枝ぶりがよく木登りもできて、いつも私たちの友達になっ

ていてくれたのです。いつでしたか、やっぱり小学校の一年か二年生の頃でした。学校の帰り道、村の醬油屋の小僧が車を引いて帰る途中、いたづら盛りの私らの中に入ってきて私をなじったのです。腹を立てた私は大きな石を彼に投げつけ、おでこに血がだらだら流れるほどの大けがをさせたの

でした。日出子ちゃんという女の子に「早く逃げな、早く早く」といわれるままに宮の森を越え山坂を駆け抜けて家まで逃げ帰りました。ところが間もなくその小僧が頭に包帯をぐるぐる巻いてやってきて、泣く泣く薬代を弁償してくれというのです。私はお袋にこっぴどく叱られたものでした。

私は二月生まれでありましたので、小学校は満六歳（数えの七歳）で入学し、中学校へは満十一歳と一ヵ月で入った勘定になります。さて柏原中学校は試験がむずかしいからいやじゃいやじゃといって敬遠していましたときに、神戸の小寺謙吉さんという人が三田に中学校を建てたからそこへ行け、いや篠山の叔母の処にも鳳鳴義塾という学校があるからこちらへ来い、などとあれこれするうちに、私は篠山の「オートネエサン」の処へ行きたいと決め、ついに水上を離れることになったのでございます。

当時の井中に「市つあん」という人力引きさんがいまして、私は大きな柳行李をマタグラに挟んで乗り、鉄の輪のついた車輪でカラコンカラコンと石生駅まで約三里余を運ばれました。そして汽車というものに乗ると、電信柱があとへと飛んで行くのでした。何と速く走るもんじゃなあーと感心したものです。

篠山の叔父が鳳鳴義塾の塾長さん宅へ入学試験の前に何やら菓子箱みたいなものを持って行ってくれたこともありましてか、無事入学が許され、義塾の寄宿舎に入れてもらったのでございます。

(二)

冬でも夏でも朝五時半の起床ラッパで起こされて、外はまだ暗いの



に各部屋の前に整列するのです。提灯を下げた五年生の週番が先導で、舎監先生がノッシノッシと歩いてくる。点呼が始まる。イチ、ニイ、三……異状なし、敬礼！と、それはそれは厳しいものでした。そのあとは部屋の掃除、それから勉強が一時間余、やっと朝の食事なんです。一汁一菜で沢庵が二切、というつましい寄宿生活の毎日。を過ごしたのでございます。

寄宿舎生活の思い出はあれこれとたくさんありますが、そのうちでも一週間に三十銭分だけしか菓子を食べることを許されなかったことは忘れません。小西という菓子屋が週に一回だけ食堂へ売りに来るのでした。舎監先生から三十銭分だけの四角い焼印の押してある木の札をいただいて、それで小西の小僧さんから菓子をかうという寸法なんで、ゼニは手にすることができない

のです。

夏休みが終って寄宿舎の部屋に入ったとたん、に蚤の大量におそろれ、腰から下は真つばだかになって畳を上げたり石灰をまくやら、机を並べてその上に寝る始末でした。

当時はバンカラの時代でしたから、奇人、変人、トンキョウな人種が全国から集まっていた。口にはいえないような恥かしいことをする者や、醬油をぶっかけてご飯を何杯も食う奴や、トンキョウな声を出して走り廻る者、罰を食らう者——棒銃といって背のうを背負い「立て銃」の姿勢で倉庫の前に一時間余を立たされたたり、廊下を鏡のようにツルツルに拭いて舎監先生の見廻りを待つ者——等々、つらいこと、おかしかったこと、いたずら盛りの生徒時代は忘れられないことばかりでした。

厳冬早朝の五時半、まだ外界は暗いうちに炊事場へ火種をもらいに行くのも大仕事でした。当時は炭火鉢でありましたので、点呼がすんだらもう一年生は血まなこで炭火もらいの競走なんです。山奥の田舎ではほんと育った農家の子が、こんな厳しい寄宿舎に飛び込んではたまったものではありません。一年半でとうとう参ってしまいました。二階町の佐治という校医さんから入院治療を指示された私は、大阪の病院に二カ月余も通うようになったのであります。

四

大阪では北区小幡町の叔父の家に滞在して午前中は病院通い、午後には天神橋の活動写真館にという日課をつづけていました。学校では数学は因数分解と方程式の計算、英語は英訳の勉強がある最中で、私は

それにはずれてしまったのですからサッパリです。この打撃が計り知れぬほどの大ききで後々までひびき、三年生に上るときはもう落第すれすれで覚悟をきめていたもんです。なぜ上ったのか疑うほどでした。

いつもだらしなく尻垂れ帯の着物生活をしていた百姓の子が、俄かに朝から晩まで小倉の窮屈な服を着て堅い革帯を締め、お腹がヒョウタンのようにくびれてしまうんですから、そら体の調子が悪くなるのがあたりまえです。そんなわけで、胃腸の悪化がもとで鼻の奥がつまり、頭が痛くなる病いに侵かされたという次第です。

西洋料理というものを始めて食ったのも、この大阪の病院通いのときのことです。大正四、五年の頃なんですなあ。当時ライスカレー、ハヤシライスというのがもうありました。そのハヤシライスを叔父の家で初めて「西洋料理じゃよ、食べてみな」といわれたとき、私は気持ちが悪くてどうにも食べられないのです。ほんとうに困ったんです。叔父の家の便所のおいと同じにおいがするんですもの、このときの印象が今の私にも残ってしまして、鼻について駄目なんです。八十歳の今でもライスカレーは食べますけれど、ハヤシライスはまがいのもの、例えは少しくさいハンバーグのようなものは好物ではありません。

学業は遅れたし、寄宿舎へ帰るのがもうコリゴリで、その後は魚屋町の叔母の家から鳳鳴義塾に通うことになったのでございます。

叔父は福知山で時計修理の勉強を何年かしてきた人で、石田伴世堂というのを篠山七十聯隊に近い魚屋町で開業することになり、叔母はそこへ嫁に行っていたんです。もう二人目の子供が出来てしましてそ

の二階に私の部屋を作ってくれました。二階から広い前の道路を挟んで「いろは」という肉屋さん隣りのお菓子屋さんがいつもチラチラするのが気になりました。毎朝の定刻には女学校に通う女学生の顔が四年、五年頃になると少しは気になったものです。

幸世の家に帰ると冬は空気銃を持ってスズメ打ちをしたり、夏は草刈りをやらされたり、春の休みにはたしか麦田んぼでのたんぼかじきを、つらいつらいと思いつつやらされたことを覚えています。奥山へ放牧の牛を毎日十一時頃になったら連れに行くなど、氷上での思ひ出は義塾の休みのときだけが印象に残っているだけでありまして、ほかには村の青年等と「サカナ坪」という佐治川の深い瀬に泳ぎに行ったこと、村の集会所で五目並べをしたことぐらいであります。

(四)

右のように十二歳と一ヶ月でもう篠山の生活になり、その後の氷上での思い出は割あいには少ないのです。でも柏原の八幡さんのお祭りに行ったこと、船城の天王さんというのに牛を連れてお参りをしたと、小さいときたしかやはり天王さんのちかくであったか、虫切り封じとやらで指を切られ、赤い血が出て白い紙でくぐられたこと、佐治川に大水が出て幸世橋が流されたこと、そこでその後小学校へ通った曲りくねったあの道が、田んぼを一直線に佐治川の土手も通るのをやめて幸世橋の根元までズーッと一本になったのも、私がもう篠山へ移った後のことのように思っています。そのほか氷上でのことをあれこれと思いにつけますと……香良の不動さんのこと、暗い穴の奥に白い眼をコウコウと光らせて睨んでおられた不動明王さんのお姿の

厳肅なお面わゆさ、それにその大きなしだれ桜のみごとさ、幸世沼区の奥で佐治町に通ずる道の左側にきれいな清水が湧き出ていた「沼の清水」という所があったし、柏原中学校でだったか、氷上郡の全小学校の合同大運動会に参加したこと、成松のえびさん祭りがさもにぎやかであったこと、むろん隣り村の御油のお宮さんの祭り「田井の宮」のお祭りなども、村の祭りの嬉しさは忘れられない行事でありました。夏の夜佐治川での火振りの鮎狩り、サカナ坪のイダ釣り等々、飛びとびながら思い浮かべるのでございます。

鳳鳴義塾を出て東京へ来るまでかれこれ一年半余を田舎にいたので、実は学校へ続けて行つて月給とりになり、人に使われるなんて我らしくない、いっそ豚でも飼つて牧場経営でもやり、夢のブラジルへ渡つて大牧場事業に進むことを望んでいまして、柏原の土田文治さんという方からご自慢のヨウクシャ種の真白な子豚を二頭頂戴し、豚飼をはじめたのであります。夏の暑い暑い日にも幸世村鴨内の醬油屋さんへ大八車を引っぱつて行き、醬油粕をもらつてきては豚の飼料



徳昌寺山門附近の石柱

にし、どんどん大きくしてとうとう十二頭の子豚をお産させるまでになりました。目指すはブラジルでの牧場生活、子豚は生れたし、もつともつと研究をして必ずやつて見ようと一生懸命全くの純粹無垢、もうそれのみであったことを今も思い出し、誠に純潔最高の青春であったその頃のことを今うらめしく思うのでございます。そんなとき東京の早稲田大学を出て高田商會に勤めていた従兄や、今一人の従兄で早稲田の学生で夏休みに帰つてきていた連中が、私の家にきて父を責め私を責めて、どうしても今一つ学校へ行け、そうでないとこれからの世の中へ出るには駄目だ、絶対に駄目ですよ、と。私も父もそれに閉口困苦悩々で全くのところ困つたのですが、大考の末せつば詰つた思いをいたしまして、東京へ出ることにしたのであります。今から思えば何とまあ弱かつたもんじゃと悔みます。当時国勢調査員という指名を受けて大きなメタルを役場からもらうし、ぼつぼつ幸世村のお役にもたしかけた豚飼いの私でありましたが、それはもう夏の終る九月のことでありました。可愛い豚の子をたくさん残しての旅立ちで、今でもその頃の豚飼いのことを夢に見るほどなんでございます。母は何もいひませなんだが、心の内では大の反対であつたことを私はひしひしと身を感じていました。かつて十二歳一ヶ月目の春、篠山の中学校に行くといつて村の市つあんの人力車に乗せられたとき、このお守りを、と黒いビロウドの守り袋を母が私の手に渡してくれたそのお守り袋を、また胸にいだいて上京したのが十九歳の秋でありました。このお守り袋は八十歳になる今も手元に置いてあります。

氷上というところは、尋常小学校を出て十二歳過ぎになって中学校へ行った頃までの十二年余と、鳳鳴義塾での春夏冬の学校休みと、中学を卒業した満十七歳一ヶ月目から約一年半を暮らした豚飼時代だけで、あとは青雲の氣をいだいていた豚飼いの頃とは裏腹に、東京の学生時代の夢中さはともかく、東京の人、生々しい世相の人、いやらしい競走の中の人、激しい経済、うらめしい人々の心の渦の中を泳ぎ過ぎ、そしていつの間にか歳を重ね、住居も転々、今は東京を離れて老人仲間の世話人間となつて、富士の見える江の島のほとり藤沢に住まうようになってるのでございます、あゝ世は幻しか夢うつつ、さてこの先はどんなになるんでございましょうや……。

以上純粹無垢の氷上の時代を思い出しての私の白状でございます。

たどり来て柿の実のなる夕日哉

『オラトリオ合唱団』を指揮して

——第三回演奏会の盛況に感激——

笹倉 強

(西脇市)

一九八〇年四月、池袋音楽院の一室に混声五十余名が集まつて合唱団の活動は始まった。一人で歌うよりも、仲間と共に歌うことをこの上ない喜びとする者ばかりである。



城北オラトリオ合唱団演奏会

年令は十七歳の高校生から還暦目前の戦前から歌ってきたアマチュア音楽家などさまざまである。女性が三分の二、残りが男性だが、女声のソプラノとアルトがどういうわけか約半数というのはふしぎなほどである。男声もテノールとバスがほどよく分かれている。

合唱の経験者は自信をもって発声し、初心者は周囲の様子を伺いながら緊張してせいじっぱいである。

初年度の曲目はヘンデル作曲のオラトリオ「メサイア」(救世主)の大曲で

あったが、十二月二日の日本都市センターホールの演奏会に至る道程は遠かった。

この演奏には四名の独唱者を必要とする。ソプラノ―築地久仁世、アルト―菊池洋子(米上郡出身の郷友会員)、テノール―雨甲斐英夫、バス―大野静男の諸氏のご協力が功を奏し、団員七八名が結束した演奏は大変な熱演であった。会場は満員の盛況で熱烈な拍手に迎えられ、オラトリオ合唱団・第一回めの公演は大成功に終わったのである。

音楽の愛好家が集まって演奏活動を行なうだけではなく、それが何か社会のお役に立つことはないだろうか。この演奏会の収益を社会福祉事業に寄付しよう! そういった私たちの主旨に、幸いにも多くの賛同者のご協力を得て、毎日新聞社を通じてアンディデュナン教育研究所(日本車椅子バスケットボール連盟)へ、そしてボランティアグループ(ともに生きる)へと、それぞれ誠意をこめて贈ることができた。だが私たちの役目はまだ終わらない。車椅子のバスケットボールの試合に審判員として奉仕する者、「ともに生きる」勉強会が毎月第三日曜日に行なわれる際に合唱を聴いてもらったり、共に歌うなど、交流をはかる団員もあった。



笹倉 強氏

かくしてオラトリオ合唱団は第三回めの演奏会を五七年十二月二日、日本都市センターホールで行なった。曲目

はモーツァルトの大曲レクイエム(鎮魂曲)、一一〇〇名を数える超満員の盛況であった。

年の瀬ともなれば音楽会は「第九」がきまりものなのだが、「レクイエム」もまたふさわしいのではないだろうか。故人を偲び、今年一年を健康で過ごした自分を見つめ、明日に生きる喜びを感謝することができれば……。そのような思いを「モツレク」の音符一つ一つに込めながら、生命の意義の写し絵のようなものをじつと、音楽づくりに努力してゆきたい。

(註) 筆者は城北埼玉高校教諭で武蔵野音楽大学、東京学芸大学講師としても活躍されている。本人は「一音楽教育者として微力ながら音楽を通じて教育の道二十八年を経た今日、拙ない指揮ではあるが条件の許す限り歩みを続けたい」と語っている。
なお夫人の郁子さん(西脇市出身)もオラトリオ合唱団の有力な一員である。(松)

『竜虎八天狗』の旅

常岡 幹彦

(柏原)

妙義の奇峰——吉川英治の世界

今春、講談社から吉川英治全集の口絵を描くようにとの電話をいた

だいた。同社出版部長で郷友の小杉仙生さんからの御指名である。ちやうど東京セントラル絵画館の個展開催中であつたので、打合せのため、小杉さんと副部長のKさんに会場までお越しいただき、「竜虎八天狗」の口絵をカラーで三枚おひき受けすることになった。

物語りは、高野山の麓、九度山から始まって、駿府、群馬の妙義、そして大阪城終焉に及ぶ。どうしても取材の旅が必要である。折しも個展会期中に妙義町在住の旧友K君がわざわざ上京してくれたので、右の次第を話すと、磯部温泉に宿をとるから三十年ぶりの再会を祝して磯部で一杯やろうという。

新緑も美しい五月、東飯能駅から八高線の各駅停車にゆられて高崎に出て、昼すぎ磯部に着く。あらかじめK君のとつてくれた宿は、取材旅行には少々贅沢な磯部随一のIガーデンであつた。夕方にはまだ間があるので早速車で妙義山に向かう。妙義は芸大卒業当時、あの奇峰に魅せられ、この物語にも出てくる第一石門手前にある七曲り胸突きの急坂を毎日登り、金洞舎一本杉まで写生に通つたことをなつかしく思い出す。そんな話を運転手のAさんに話していると、その登山口で車をとめてくれた。妙義紅葉ラインが出来たので、すっかり様子が變つて、説明されなければ入口がわからないほど木が繁つていた。

かつて、青木繁、坂本繁二郎、平福百穂、結城素明、中村不折等々、多くの画家や吉川英治も登つたであらうこの径も、もう人の通ることもないのであらう。はたして頂上まで歩けるかどうか、あやぶまれた。また、文化勲章を受けた本多光太郎博士の妹さんで、若い頃夏目漱石のお嬢さんと上野の不忍池畔を散歩したことなど話してくれた柴垣はるさんは、一本杉の茶屋、金洞舎に一人住まいであつた。

第一石門から奥の山を県に寄附した人だが、あの急坂を下るのに駕籠に乗つたはるさんと一緒に撮つた写真を今も持っている。品のよいおばあさんであつたが、三十年も前のことである。

閑話休題、物語は関ヶ原役後の天下の形勢を決する「鳳凰」「水虎」「火竜」からなる「扶桑掌握図」の三巻を合わせると、日本全国のお金銀銅山のありかがすべてわかり、それを財力として天下を掌握することが出来、その一巻「火竜」が妙義山三の洞門にかくされ、その行方をめぐつて、真田方八天狗と徳川方の智勇が妖怪を尽くし合うというものである。

三十年ぶり、美酒に酔う

妙義は白雲、金洞、金鶏の三山から成るが、折しもその舞台である金洞山は霞がかかり、雲間からは白日の光が淡く白く、陽が傾くにつれて奇岩重々の山容が妖氣をはらんで、物語のムードにピッタリである。一枚の写生を終ると、金洞は夕闇に融けあつてた。ホテルに帰ると間もなくK君がやってくる。K君とは戦前からの友人だが、以前に会つた時は妙義町H旅館の帳場で十年ぶり、今回は三十年ぶりの再会である。お互いに健康を祝つて、深夜まで美酒酌交し旧交を温めた。

翌朝、昨夜来の雨も上がったので、昨日見ることの出来なかつた金洞山の稜線をたしかめに妙義に行く。今日は雨に洗われて山容もはっきり見えたが、その分、何かアツケラカンとして面白くない。同じ風景は二度と見られないというが、正にその通り、きのうの金洞をみておいてよかつたと思う。

悠はってもう一枚写生をしているうちに、先ほどまで開いていただ一軒の食堂が、客の少ないせいか閉めてしまった。これで昼食はぬきと決まった。寒風と空腹で冷えきって宿に帰ると、K君が待っていて、「中から暖めるに限るぞ」高崎に出ようという。痛飲。午前二時宿にたどりつく。

駿府城跡の面影



妙義金洞舎茶屋前にて一駕籠にのった柴垣はるさんと筆者（後列左より4人目・昭30）

昨夜の高崎行が少々こたえて、L特急で上野に着くまでずつきりしない。東京駅から『こだま』で午後静岡に着き、今夜の宿は駅に近いGホテルである。早速徳川家康の御隠居城であった駿府城跡に行く。ホテルのフロントで聞いたら「何も残っていませんよ」といわれたが、なるほど城の面影といえ、石垣と濠だけで、背の高い市庁

舎のビルが立ち、濠の内側は野球のグラウンドやテニスコート、公園だけである。ちょうど土曜の午後でもあり、人々はベンチに或いはスポーツに興じて楽しそうだが、こちらは二日酔は直っていたものの頭の痛いことである。先はひと思案と、小一時間かけてお濠を一周しながら思い出した。そうそう、明黄木綿で荷行李を背負った旅商人、実は伊賀者がこの水門や水深をさぐっていたつけ。これで納得、濠にかかる橋の上に腰をすえた。鉛筆デッサンが終らぬうちに夕闇せまり、石垣の一つひとつが見えなくなる。

翌朝、ホテルの食堂が開くのを待ちかねて朝食をすませ、昨日の続きを描く。楠の新芽が美しい。いつでもそうだが、画面に色をつけ始めると人が寄ってくる。十一時頃写生を終り、静岡発。ぐっすりねむって新大阪着、新今宮から南海高野線に乗り約一時間、紀の川の鉄橋を渡ると最後の目的地九度山である。

真田家三代の世界

今夜の宿は、案内書によって昨夜予約しておいたN旅館である。日ぐれまであまり時間もなかったが、カメラを下げて善名称院真田庵に向かう。高野山の北麓、紀の川と丹生川の合流点にあって真田家の菩提寺である。もう夕刻でもあり、すでに門は閉ざされていた。昌幸、幸村、大助の三代が十五年にわたってかくれ住んだ屋敷跡は、ひっそりと人の気配もなく、築地を通してみる八つ棟造りの屋根と共に、朱に染まった空が美しい。関ヶ原の合戦後、流されて住んだ事実と、徳川方の妖術に長けた忍者の出没するフィクションの世界が交錯して、いかにもこの物語にふさわしい夕景であった。

今朝は快晴である。野外の写生には暑くなりそうだ。朝食もそこそこに宿を出て、写生前に庵主さんに挨拶をする。宿で「ほんまにきれいな尼さんで」と聞いた通り、若く美しい庵主さんであった。庭で写生の快諾を得て、牡丹園の一隅に携帯用の椅子をすえる。古い建築物はコツコツ写生をしないと、どっしりした感じが出ないので時間がかかる。

十時と三時にお茶が出て、昼には、季節の花を添えた心づくしの冷そうめんと野菜サラダを御馳走になりながら庵主さんと話がはずむ。一年程前に真田庵に来たが、将来はふるさとである新潟に帰りたいと思ひ、そのためにすでに用意した庵には師にあたる庵主さんに住んでもらっていること等々、しまいに、新潟はうまい地酒があつて……と酒談議に花が咲く。大変気さくな庵主さんで、ついつい話してしまつた。写生は一応終つたが、夕刻では屋根瓦の組み方が判然としないので、明朝もう一度たしかめることにして、今夜も九度山泊りと決めた。

やはり丹波へ

翌日朝早く宿を出て、屋根の部分写生で構造を納得する。お礼をと思つたが、ちょうど総代さんが来られたようなので、心ばかりのお供をして九度山駅に向かう。

此処まできたのだから丹波に寄つて帰ろう。今回の個展を心配してくれた叔母にも会いたいし、一夜ぐらひはふるさとでゆっくり飲みたいと思う。今夜は我がふるさと丹波泊りである。

なお、今年は次の展覧会に出品が決定しておりますので、御高批頂ければ幸いです。（柏原町出身、日本画家）（57・12・15）

△山種美術館主催「今日の日本画」展Ⅱ会期—4月—5月開催予定
△東京セントラル絵画館主催個展Ⅱ会期—11月15日—27日開催

私の斗病記録

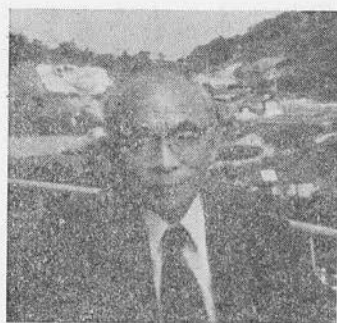
——前立腺肥大症——

谷垣 正雄

（柏原・大新屋）

昭和五十七年九月十二日は、台風十八号が東京地方を襲つて、昼前から風雨が益々激しくなり、一歩も外へ出られないほどの嵐の日であつた。

その日、私は朝から何回トイレに通つても小水が一滴も出ない尿閉の状態となつて頭がおかしくなり、尿毒症状で家の中をただウロウロするばかりであつた。あいにく日曜日と大嵐が重なつて近所の医者も休業、しかもあまりの嵐の激しさで流しのタクシーも皆無、かといつて救急車を呼んで静かな住宅地を驚かすことも憚られる。そのうち比較的近い浜田山に休日当番の医者があることを知り、懇意にしているタクシー会社の社長が好意的に車を出してくれてS医院へ行き、応急の排尿処置をしてもらった。



谷垣正雄氏

夕刻になって幸い台風も通り過ぎて雨も小止みとなったが、考えてみるとこのままでは夜中にまた苦しむことが予想されるので、それまでに調べてもらった阿佐ヶ谷の河北総合病院へ午後八時過ぎに行き、仮診療を受けた結果、そのまま入院することになった。

その晩は取敢えずカテーテル（排尿用ゴム管）を挿入したので安心したが、初めての経験で尿道に挿入時には大変痛かった。

翌日本格的診察の結果は、前立腺が異常に肥大しているので手術をして摘出のほかにとのことであった。

それから手術に必要な予備調査である。先ず前立腺の肥大部分の肉腫を検べるため、局部麻酔をして一部の組織を摘出されたが、場所がらだけに思わず唸るほどの痛さであった。癌の心配がないかを検べるためである。結果がわかるまでには相当の日数を要する。

次に腎臓と膀胱の前立腺肥大部分との状態を調べるためにレントゲンの透視をした。

その他数回にわたる血圧検査では、概ね上150で下80程で心配はなし、肺活量の肺機能テストをしたり尿道洗浄をしたり、二三日からは毎日点滴を続けたので、休日以外はあまりひまではなかった。また耳や腕から採血して止血の能力テストもしたり、膀胱検査をしたりもした。

腎機能テストのためクレアチン検査やPSP検査をしたが、それも異常はなかったようである。

その間に前に摘出した前立腺肉腫が悪性でないことが判明したので手術の日を決めることになり、医師の都合で十月一日となった。

手術を受ける準備運動として腹式呼吸の練習をした。手術の前夜は催眠薬をとったので下剤もきいて快眠快便となり、すっきりした気分が目覚めた。

いよいよ手術である。午後〇時三〇分注射（全身麻酔）をし、約一時間後に手術室に入った。

その後のことはわからない。摘出された前立腺は90グラムもあった（普通は15グラム位）。

あとで聞いた話であるが、麻酔がきいていたにもかかわらず、あばれて医師をテコずらせたので、手足を縛られたよし。また回復室へ移されてからも同様、そのため輸血も予定より多くしたという。

回復室ではまだ意識が朦朧としていたのか記憶がはっきりしてないが、腕の血管への点滴のほかに、腹部から直接膀胱へ孔をあけての洗浄液の点滴をしていたのが気持ち良く感じたのを微かに覚えていた。四日後に自分の病室へ移されてからは大分記憶がはっきりしてきた。医師をテコずらしたわりには結果は良好で、七日後には抜糸も順調に終わった。

傷痕は臍下へ約15センチ約12針の筋がある程度で、そのほか膀胱洗浄の際の傷孔が下腹部の横に残った。

その後傷痕の痛みはあまり感じなかったが、38度前後の熱が出て寝苦しい日が続いた。

手術後十日程でカテーテル（尿管）の抜きとりをしたので気分は大分よくなったが、その後右側の睾丸が脹れだした。そのためか37度以上の熱が下らず、睾丸炎の症状で局部に氷嚢をあてて冷やすことになり、夜も十分な睡眠もできず、食欲も不振で体重の減退著しく7キロも減った。そのためか股部の肉が衰えて尾骶骨が突出したのを覚えた。

十月十二日頃から排尿後の残尿感はなくなくなったが、排尿直後しばらく尿道奥でなんともいえない絞るような感じの痛さを覚え、それが約一週間ほど続いたが、十日後には全く感じなくなった。それは肥大した前立腺が膀胱の底部に癒着した部分を取り去ったあとの炎症のためとのことであった。

十月二十五日には脹れた右側の睾丸も概ねもとの大きさに戻ったので、冷やすのを止めた。手術後は殆んど寝たきりの安静であったが、約二週間即ち十四日頃より起き上がり始めたが、あまりの体力の減退で容易に起き上がれずよろけて情けなかった。そのうちに廊下を辛うじて歩けるようになり、毎日少しずつ歩行の練習をして十日程で階段も手摺りにつかまりながら昇降ができるようになった。

十月末には階段を昇り屋上で体操や散歩をして体力をつけた。十一月三日には外出して三十分ほど外の空気を吸うことを許された。

その頃には36度台の平熱にもどり、毎日続けていた点滴も止め、代りに二日間臀部注射をした。それから十一月五日に尿道検査をし八日には残尿検査をしたが、いずれも結果は良好であったので十一月十日、二ヶ月ぶりに退院した。

その後一週間から二週間おきに通院したが、検尿と薬をもらうのが主な目的である。十二月二十四日には通院の必要もないとの診断を受

け、ようやく病院から開放されて新年を迎えることができたのである。余後の症状として退院後しばらくの間、自前の歯がゆるんで堅いものが食べられず困ったので、歯医者の診断を受けた。手術のあとの体力が回復するまでの症状で、その後三回ほど治療を受けたところ、次第に歯のゆるみもよくなった。体重も三キロほど増して日常の生活には何の支障もなくなった。

しかし退院後一ヶ月ほどして名古屋まで日帰りの旅行をしたが、翌朝起床時には意外に疲労を覚え、まだ無理はできないことを悟った。尿閉の直接の原因となったのは前々日の雨に濡れての無理なゴルフであった。明春は暖かい日だけを選んで、またぼつぼつゴルフを始めようと思っている。

附 註

前立腺は膀胱の出口にあつて尿道を取りまく栗の実のような組織のことである。

肥大症は高齢化とともに次第に増える男性だけの疾患で、七〇歳以上の殆んど老人は程度の差はあつても皆肥大化を始めている。

そのため停年近くになって健康診断を受ける際は、おろそかにし勝ちな前立腺の肥大化の有無を診断してもらつて早期に発見することである。医師なれば肛門から指の感触で容易にその程度診断できるとのことである。

私のように平素健康であり、その知識もなく無関心で放任して肥大化してから慌てて手術をしなければならなかった苦い経験を極力避けられるようにと思い、ご参考までに拙文を記した次第である。

健康のよろこび

足立正

(氷上町)

数年前。極めて健康そうな七十年配の方と話をしていました。

「君はどこか悪いところでもあるの、顔色がよくないね。」

「いえ、どこといって格別悪いところはありません。顔色の悪いのは低血圧のせいでしょう。」

こんな問答が会話の中であって、その方は私に「真向法体操」のやり方を教えて下さいました。

以来、朝起床と同時に三分間、真向法をやっています。始めたのが春ごろでした。秋に毎年健康検査をしています、その年の検査の時には、血圧は正常。体重が三キロ程ふえていて驚いたものです。

その後、三年程前に三菱養和会の道場を知り、そこで柔道を始めました。柔道は若いころ、二年程やったことがあります、その後二十数年やる機会がありませんでした。初めは、受身をしたら目が廻るといった状態でしたが、身体は意外と昔のことを憶えているものです。今ではすっかり慣れてしまつて、週一〜二回、夜六時半から八時ごろまで、若者と共に汗を流しています。真向法をやっているおかげで身体が柔かく、無理はないようです。とても楽しく愉快なひとときを持てるのが大変有難く実に幸せです。柔道は理想的な全身運動です。短

い時間にすばらしい汗を流します。そのあとのビールの味の格別なこと、健康のよろこびをしみじみと味わう思いです。

常岡さん・西崎さんのこと

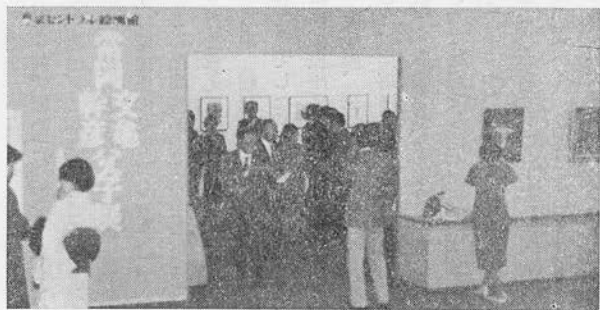
宮野近

(柏原)

五七年八月、戸田建設(株)の村上善英君から『浅草「むぎとろ」で「常岡・西崎さんを励ます会」が開かれるので必ず出席するように」との連絡を受けました。西崎さんとは幼馴染みでもあり、常岡氏も柏原出身ということで恐る恐る出席させていただきました。席上「激励の辞」を述べよと指名され、今度は「感想文」を書くように、との幹事様のご要望で拙ない文を綴るはめになりました。郷友会の有志がこのような会を催されたことは、同じく丹波で生れ育ったという共通項意識と、やみがたい連帯感の発露であると思います。

常岡氏とは県人会でも一緒させていただき、新宿で夜遅くまで大変有意義なお話を伺う機会を得ました。いうまでもなく常岡氏は画家です。①北宋画家范寛の神品、②古丹波の名畫、③クラシック等の名曲：「これらは何れも人生の奥義を極めた作品であり、自分はそれぞれのスケールの雄大さ奥深さによって画家として誠にありがたい示教を得た」と熱っぽく語られました。

①「范寛の神品」とは、本誌7号に渡辺隆男氏が名文で紹介された



東京セントラル絵画館での会場風景 (57, 4, 13~18)

台北故宮博物院の「谿山行旅図」のことです。千年後の今日もなお、観る者をして神秘の境地に誘うこの逸品を前後四回も観に行かれたそうですが、「その度毎に新たな電雷に全身を打ちひしがれる想いであった」ということです。

一般論として、絵画鑑賞も回を重ねるに従って、その感動が薄れる場合が多いそうですから、この行旅図がいかに素晴らしいものであるか想像できると思います。この神品を見ることによって「実に自分の揺れる心が止った」とも述べられました。

②鎌倉後期の作といわれる「古丹波の名壺」との出会いの物語りも興味深く拝聴しました。現在この名器が常岡氏の精進ぶりを常にアトリエで監視しているとのことですが、名壺であると断定し得る眼力に「伯楽は常には在らず」の感を深くしました。

③クラシックの数ある曲の中からヴィバルディーの「四季」を選

聞き入ったときの感動……をこと細かに語って下さいました。

氏の事物を鋭く観察しそれに感動できる心、平凡の中に非凡を見出す眼力、価値観形成への真摯な態度には全く感服いたしました。芸術の世界は特に「創造への呻吟の連続」であると思いました。氏は現在、五八年春に開かれる山種美術館での「第七回今日の日本画展」にノミネートされており、百号の大作と取り組んでおられ、十一月には東京セントラル絵画館主催の「個展」を催される予定と承っています。

◇ ◇

芸術家の感動の心といえば、西崎さんが高校時代に丹波の山奥のテレビで見た初代西崎緑の舞踊があります。彼女は、そこに自分が追いつめていた「日本舞踊の真髓」を発見したからこそ画面に釘付けになったのであり、幾多の困難をも乗り越えて、今日その奥義に近づきつつあるのだ、と申せましょう。

彼女は、一口にいって「信念の情熱と根性を持ちあわせた丹波の女」です。第一に西川師匠から、第二に山田耕筰師から、そして初代西崎緑師匠から、その秀れた芸術と見識と世界観を教えられ、感動しながら、確実に学びとっては咀嚼し、自己の芸術創造の基礎としています。また、彼女の手記「日本舞踊ひと筋」にも述べられているように、その道が険しく厳しかっただけに、そして幾度か奈落の底へ突き落とされる落胆をしみじみと味わって来ただけに、その芸も人間性も格段の磨きがかかっています。悩み、考え、撰択を迫られ、耐えながら、それでも修業を続けて来られたのは、彼女の日本舞踊に対する確固たる「信念と情熱と根性」があったからだと思います。



西崎祥さん

一月に名流舞踊家公演の「惜しむ春」、六月は西崎祥の会で「鳥羽の恋塚」

「近江のお兼」を拝見しましたが、鑑賞眼のない私にも、その一挙手一投足に一年の精進の結晶と、一期一会の真剣さが伝わってきました。

日本舞踊界は「強きを助け、弱きをくじく」陋習が存在する世界とのですが、それにめげず更に精励し、より多くの人々に我国古来の伝統芸能である日本舞踊の良さを披露されとともに、新舞踊の創造に邁進されんことを心より願います。

私たちは、大なり小なり関東で苦勞しながら生活しています。幸い郷友会に参加すれば、心と心で語りあえる場が与えられ、数々の有意義な機会に恵まれますし、多くの先輩知己とその秀れた人生観を知ることが出来ます。一見極めて関係のない異業種の方々との語らいの中に、明日への活力が産み出され、新たな飛躍の世界が創造されるものと確信します。郷友会とともにさまざまな郷友を「励ます会」の輪がますます燃え広がることを願って止みません。

(五七年文化の日・東京トヨベット映画部長)

田中篤郎氏 CM製作で大賞独占

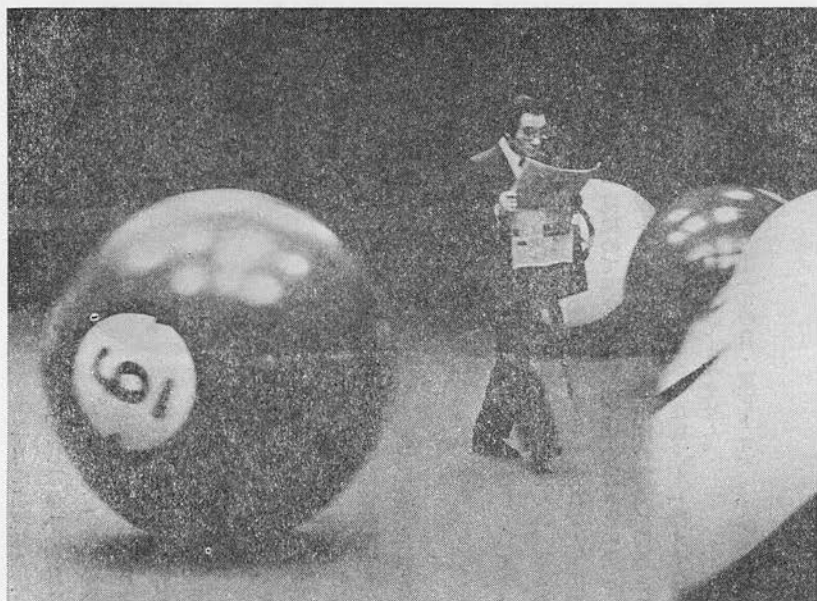
田中篤郎さん(市島町戸坂出身)が昨年、テレビ・ラジオCMの日本一を決めるコンクールで、四つある最高部門賞のうち、グランプリなどまとめて三賞を受賞、さらに、世界でも、「カンヌ映画祭」など三つの権威あるコンクールに軒並み入賞されました。

「田中さん?」……そう、あの「トクさん」です。ほう、郷友会や拍陵同窓会で、いつも笑いの中心にいるあのトクさんです。田中さんは、CMなどを製作するプロダクション「大日」の社長です。

その社長の自作自演ということもあり、読売新聞が芸能面ではなく文化面で、大きく破格の取り上げ方をしたのを皮切りに、週刊朝日が特集を組み、郷土では丹波新聞がトップ扱いするなど、マスコミが騒ぎましたので、ご存知の方も多いことと思います。

グランプリに輝いたのは、東京海上火災保険の「ビリアード/危険がいっぱい」。ゲーム中のビリアードの台上、錯走するボールの間を、いささかくたびれ加減?のサラリーマンが、左手にかさを掛け、新聞を読みながら歩いている——あのコマーションです。このサラリーマンを演じているのが、実はトクさんその人なのです。

「ボールは実物大、重さは10キロあるんよ。当たったら命がない。



田中氏の自作自演グランプリに輝いた「ビリヤード／危険がいっぱい」

身の縮む思いやった」そうです。そういわれてみれば、とても素人とは思えない迫真の名演技でした。

読売新聞は「画像の処理が巧妙で構成も確か。見て面白く、CMのねらいも明確」と最大級の賛辞を贈っています。そして「正統派のナンセンス劇仕立てである。ナンセンスに正統も異端もあるものかと思われがちだが、愚にもつかないダジャレのやりとり、見るからにわざとらしいバカげた演技、奇妙な道具立てで一回限りのバカ笑いをねらうだけのものと、このCMのように、ごく普通の男が、ごく自然にビリヤードの台上を歩くといった、日常と非日常を交差させて、見る人の笑いを誘うものとの間には天地の差がある。……つい気づかずにいるが、CM作法の質が徐々に底上げされてきている証左と見たい」と高く評価しています。

田中トクさんが獲得された賞は次の通りです。

- ① 全日本CM協議会（ACC）グランプリ（30秒） 東京海上の損害保険（ビリヤード）
- ② 同最秀テレビ・スポット賞（15秒以内） 東芝サークライン
- ③ 同最優秀ラジオ・スポット賞（20秒） 松下電器スピードカッター
- ④ カンヌ映画祭CM賞 ビリヤード
- ⑤ IBA賞（アメリカ） ビリヤード
- ⑥ クリオ賞 東京海上のボーリング編

尾瀬に学ぶ

吉住 重造

(春日・中山)

私は今、地域の道路問題に真剣に取り組んでいる。私をこの問題に駆り立てたものは二泊三日の尾瀬旅行であった。

○

昭和五十七年七月一日から二泊三日で尾瀬に遊ぶ。丹波の山猿が五五年ぶりに本当に人間らしい素朴な自分を取戻すことができ、心が洗われるような、さわやかな気持ちであった。

尾瀬のとりことなった私は、今も折りにふれ尾瀬のPRに懸命だ。尾瀬の魅力を一言で表現すれば、自然と人間の英知とが混然一体となつて創り出した最高傑作といえよう。

夜一〇時三〇分上野からバスで出発し、鳩待山休憩所に着いたのは明けがただった。小憩の後、朝露を踏んで、したたるような緑の草原を四〇キロの尾瀬の旅がはじまった。

メンバーは国立久里浜病院の検査技師(女性)と三名の看護婦さん、それに私と家内の一行六人。私以外は女性。私はナイトよろしく、張り切つて出発したのだが、何しろこの歳では却つて足手まといになつたのかも知れない。

リーダーはその道のベテランの渡辺孝子さん。前年の中国旅行にこ

一緒した独身女性、自然を愛し、草花をいつくしむ、心やさしいお嬢さんだ。

鳩待峠から山ノ鼻を経て尾瀬ヶ原の湿原地帯を牛首、竜宮とええんと続く木道を歩き続ける。

どんな草花も目ざとく見つけ渡辺さんの説明が続く。ニッコークスゲ、ハクサンチドリ、ワタスゲ、ゴゼンタチバナ、チングルマ、イワカガミ、マイズルソウ、リンドウなどなど私達がふだん何げなく見すごしている草花にもそれぞれ名称があり、珍重すべきものが多いのを知る。

一〇キロも歩いたらうか、見晴しに着く。展望すれば尾瀬の湿原を真ん中にして男性的な燧ヶ丘と女性的な至仏山が美しく、いつまでもあきることがない。

ここで昼食、持参のコンロで米を炊き、おかずを作つて食べる。そのおいしいこと。売店で買ったもの以外は生ゴミ、空カン、紙クズ、すべて尾瀬から外に持ち出さねばならない。これは徹底している。私達はゴミを入れたポリ袋をリュックサックにしぼりつけ、ブラ下げて歩くことになる。

昼食後十字路から北に向つて約四キロ、道は湿原から林道に入るにしたがいひどい悪路になり、ハンゴや鎖の急坂となる。やがて滑らかな川床を這うように流れる平滑の滝を左に見ながら、更に坂を下ると高さ一〇〇m・巾三〇mの圧倒されるような三条の滝が現れる。

その夜は十字路の第二長蔵小屋に泊る。入浴、食事をして八時消灯という規則正しい生活だ。疲れているので朝までぐっすり眠る。

翌朝早く出発、白砂湿原を通り、ここで二手に分れて若い三人は燧

ヶ丘（二、三四六m）の登頂に挑戦。私達三人は沼尻から樹林地帯を小鳥たちの合唱に送られ約一〇キロ先の尾瀬沼、長蔵小屋に着く。

二すじの木道を行き交う人々は必ず、お早ようございます、とか、今日は、と声をかけ励まし合う。まことにうれい情景だ。水バシウの時季ではないので人の行列はない。まことに快適な旅だ。だが沼尻平附近にはまだ随所に水バシウが群生し、真白い花を咲かせて私達を迎えてくれる。

二日目の宿泊は第一長蔵小屋。入浴も石輪は使用禁止。歯を磨くにもハミガキは禁止。尾瀬の汚染を防ぎ、草花を保護することが至上命令なのである。

翌朝は約九キロの三平峠を越え、大清水に出て、ここからバスで帰途につく。

尾瀬の交通機関は専ら人力。自転車も自動車も使えない。物資はすべて背中に背負って峠を越えて運ばれてくる。自然保護に対する配慮、まことに頭の下る思いである。

尾瀬を語るとき、この人を除いて語ることはできないと言われるのは長蔵小屋の創設者、平野長蔵氏。その長男は長英氏、三代目が長靖氏である。三代にわたり尾瀬の開拓と保護に全生涯を捧げた人達である。

特に三代目の長靖さんは尾瀬をぶち抜いて造ろうとするスーパー林道の工事によって三平峠の岩清水が破壊された時、大臣に直訴するために三平峠を越えようとして、そのまゝ帰らぬ人となってしまったのである。

今は奥様の平野紀子さんが伝統ある四つの小屋、ロッジを女手で守

っておられるが、私もお会いしてきた。

まことに崇高なる犠牲と言わなければならぬ。

私は尾瀬の自然を破壊から死をもって阻止した平野長靖氏に対し、深い感銘と多大の共感をおぼえ、帰京して直ちにこの道路問題に取組む決意をした。

○

冒頭に述べた道路問題とは、拙宅の二〇〇m先で行き止りになっている幅員一六mの道路を延長し産業道路にしようとするもので、昭和二十九年に建設省告示によって決定された計画である。昭和四十九年には私達の反対により、この道路の延長に対する川崎市の議案を審議未了、廃案に追いこんだといういわくつきのものである。

私は尾瀬の大自然をここ川崎に再現しようとは思わないが、この道路が開通すれば一日一万五千台の車が殺到して静かな住宅街は交通地獄と化し、住むことができなくなることは火を見るよりも明らかである。

私は今、地域の方々から推されて「登戸、野川線を考える住民の会」を組織し、その代表者として活潑な運動を展開している。

尾瀬から帰った直後には二日間で一五〇〇名の署名を集め、陳情書を市当局に提出した。これに反し開通促進派は二つの町会の町会長と役員、自治会長を中心に、五つの政党の支援を得て促進運動を展開している。

私達反対派は数の上で圧倒していて、私達の支持者は三千名に達している。これをもし地域エゴというならば話し合いの場で、我々の「今、なぜ、この道路が必要なのか」という根本的な問いに対して、

当局はなぜ明確な納得のいく説明をしないのか、甚だ遺憾に思っている。

私共は大会の喧騒から逃れ、新鮮な空気と緑と太陽を求めるべくこの地に住居を定めた。

将来も不安なく安穩静ひつな生活の持続できることを信じて、地価上昇率日本一と言われたこの地を、破格の地価にもかかわらず、あらゆる家庭内の努力を結集して入手し、今日に至っている。

すべての生活の基盤はここ宮崎の生活から出発している。私達の合言葉は「ここを絶対に住居にしてはならない」ということだ。

低成長期にはいった今日、物質的な豊かさよりは精神的な豊かさこそ大切にしていかなければならないと思う。

道路を通せばどこに行くにも便利だ。生活がそれだけ豊かになる



尾瀬旅行の筆者（中央）と一行

という考え方を見直すべき時期に来ているのではないか。大きいことはいいことだ。早いことは善であるという時代はもう終わったはずだ。

道路を延長することによって得られる利益、すなわちA地点からB地点に出るのに以前よりも5分早く出られるといった利益と、延長することによって生ずる不利益、すなわち静寂な住宅街を脅かす騒音、歩行者、通学児童に迫りくる排気ガス。群をなして夜の町を傍若無人に走り回る暴走族といった不利益とを比較してみれば、答えは自ら明らかであろう。

私達が頑張り通すことによって次代の子供達もここを故郷化することになり誇りと愛情を感じるようになると思っている。

文明という名の仮面をかぶった車のラッシュによって、私達の生活権がこれ以上破壊されることを、手をこまねいて傍観していることは許されない。

私は尾瀬に学び、ますますその確信を深めている。

筆者は（ノープルスター株式会社社長）

岡田一夫氏

ナイト・レジャー界に君臨

郷友の岡田一夫さん（山南町出身）が、経済誌「財界」（昨年十二



岡田一夫氏

月十日号)が特集した「現代成功者列伝」に登場、「アイデア成功型」の一人として、大きく紹介されている。

同誌によると、岡田さんは大阪に本社があるナイト・レジャー企業「大和実業」の経営者。同社は、東京と大阪を中心に、全国に会員制クラブやバブなど百十店をもち、五十六年度の実績で、年間の来店実数が五百五十万人、売上高百八十五億円という、まさに同業界のチャンピオン企業である。

岡田さんがこのように、驚異的な業績をあげるようになったのは、岡田さんの先見性と卓抜したアイデアのたまもの。「会員制クラブ」と日本版「バブ」の二本立てで、従来のお色気一本やりを排して、徹底した低価格、明朗会計で売る商法を開拓。しかも、質の高い人材を求めて社員教育を怠らず、また暴力団を締め出し、この業界につきまとう暗いイメージをふき払った。つまり、安く、楽しく、たつぷりに「安心」をプラスしたのである。

アイデアの一例——、一早くコンピュータを導入、銀行なみの「オンライン・ポトルキープ・システム」を採用した。チェーン店のどこか一店にポトルをキープしておけば、出張などで知らない土地に行っても、会員カードさえ持っていれば、安心して同じサービスが受けられるという仕組みである。これが受けて、これまで発行されたカ

ードは百二十五万枚にも上るといふ。

こんな岡田さん、実は昭和十六年、朝鮮放送協会京城放送局の技術部に勤務したエンジニアであった。現地召集、戦後復員して大阪、梅田に服飾雑貨や船舶用品などを扱う店を開いて独立、昭和三十年に友人のすすめで、寿司屋へ転向、そして三十四年、業界に先がけて、会員制のクラブを開設して今日へのスタートを切るのである。

松柏会東京支部解消について

松柏会東京支部が正式に発足したのは、昭和六年でした。今その写真を見ますと、生存者は三、四名です。毎年一回会合しておりましたが、戦争で愛国婦人会、国防婦人会等で忙しくなり、終戦後消息不明が多く自然中断となりました。昭和三十年頃かと思いますが、小野恵子様の御尽力により再会することとなり、三五名出席者がありました。毎年一回卒業年次順に当番することとして会合しておりますが、いつとはなしに数年毎になりました。

高校となつて会員がふえますのに、出席者の中に次の当番の年次の方が居られなかったことなどのほかには格別の原因があるわけではありません。連絡不行届の一端は私の熱意不足もありますでしょう。誰方かにと御願しましても御承諾下さらず、遂々今日に至りました。手



—築地店—ロヒエ57.10.13一昭和会東京支部同窓会

元に確とした記録もなく漠然としたことです……

今年十月に大江範子様の御尽力で一五七名の方に通知して頂いたのですが、出席者が少なく、これでは通信費倒れになりますので、その時出席者と相談し、今年限りで解消することに決定しました。始めから会費も徴収せず、会の時出席者が通信費を負担して来しました。会

員も少なく皆様の御意向で定めたことですが、現在の会員数に往復ハガキに印刷して発送しますと可なり額の額になります。

御承知の通り柏陵会が年毎に盛大になりまして、御婦人方の出席も年毎に殖えて来ましたので、今後は柏陵会東京支部の方へ奮って御出席下さいませ。永年不本意ながらお役目を仰せつかりましたことが、誠に万事不行届だったことを御詫び

申し上げ解消の御挨拶と致します。

皆様の御健康と御発展を御祈り致します。

昭和五十七年十一月

植村章子記

和歌

白寿の絵皿

音無太美子

(旧姓 山本 春日・黒井)

先頃黒井へ母の白寿祝や親戚の婚礼に行きました。

ふるさと近く車内の人の方言に

除々に調子の合える安らぎ

娘らが祖母の白寿に車椅子

祝ひてわれをも喜ばしくれぬ

白寿とて大臣よりの絵皿には

寿の字の九十九あり

司会者が新婦にマイク向ければ

ハッキリ「幸せです」と微笑みてこたう

サインの色紙に妻は笑顔で明るくし

夫を立てよと書き贈りたり

久方に田舎の山の栗拾ひ

孫にさせたしとしきりにおもう

(57・11・5)

▼本の紹介▲

津留六平著『若い獅子』

津留氏はさる五十四年、日本経済新聞社が懸賞募集した経済小説に、『再建工作』で当選されたが、本書は以来四年、満を持して放つ書きおろし長編第2弾である。

舞台は東京と大阪。不動産会社を父親から託され、誰の手助けも受けずただ一人、試行錯誤の中からたくましく育っていく若い二世社長をタテ糸に、これを突き放して敵しく、しかし温かく見守る銀行支店長と父親とをヨコ糸にして織り上げた人間ドラマである。随所に、経験豊かな銀行マンの鋭い目を感じさせ、なかなか示唆深い。しかし肩のこらない好読物だ。著者は本名中井良平、柏原町の出身。

(二二〇円、日本経済新聞社刊。)

春日町の『民族行事』今むかし

むかしから丹波地方で行われてきたいろいろの年間行事を集成したもの。春日町文化財審議委員会が編集したもので五五版七八頁の小冊子である。

目次は、正月、春、夏、秋、冬の季節ごとの行事のほか、冠婚葬祭

のいろいろの祭事など、われわれの祖先がよきにつけ悪しきにつけ、または嬉しいとき、悲しいときに行った『ふるさと』の古い姿を克明に叙して、亡び行く行事をなつかしみながら綴ったものである。編集者にとって『ふるさと』の再発見にもなればとの願いもこめられていて、なつかしさすら覚える冊子である。春日町公民館発行。

『丹波史』第2号

『丹波史』第2号は柏原町、県立丹波文化会館内、丹波史懇談会(会長、細見末雄)発行で、郷土の歴史や民俗に関する論文や報告や解説を載せるもので、希望者の入会を望んでいる。本号には、丹波の植物方言と古語(細見末雄)中世大山荘の祭祀について(久下隆史)血寄地蔵尊の一考察(中野卓郎)山論(足立晴治)など丹波地方のユニークな研究が載せてある。

『植木環山先生伝』

木戸源治郎編集

(山南町長)

木戸源治郎編集、「続写真和田史付植木環山先生伝」(環山先生は植木佐鹿氏の祖父に当る)を目下有料配本中です。
是非一本をご購読ありたし。

「山ざる」神戸新聞に！

前田武彦（春日黒井）

先般、神戸新聞紙上にて御誌「山ざる」の記事を拝見致しました。できれば入会させて頂きたく、御手数ながら規則等お知らせ下さいますようお願いいたします。

（小生、パラグアイ・アスンシオン在住）

（註）この神戸新聞の記事は昨年五月二十日付「丹波」版に紹介されたもので、芦田確次氏（黒井在住）から丹波総局の記者が取材

丹波

会山ざるパイ役果たす

便り待ちどおしい
800会員

郷友会、41年印刷
東京で毎年発行



「氷上生まれの関東育ち」
郷友会、41年印刷
東京で毎年発行
便り待ちどおしい
800会員

して別掲のような大々的に報道されたものである。

前田氏にはさっそく詳しい返事を送りました。（松）

西山敬次郎君を励ます会

五十七年六月二十三日（水）午後五時三十分から、東京赤坂プリンスホテルで、発起人は河本敏夫経企庁長官外二百余名が連なり、会盛大に開催された。郷友会からも伴仲信次所長ほか多数が招待、列席した。何分西山氏は多年通産省の要職を歴任したのち、郷里で総選挙に立候補したが惜しくも無念の涙を吞んだ。これらの経験を今後も充分に發揮して活躍されんことを期待しての熱気あふれる会であった。

本誌が縁で

十九年ぶりの同窓会



柏高出身の同級生

「山ざる」がご縁で柏高出身の同級生が集まりましよという話がありました。

最初は四、五人だけでしたが、もつと集まれるのでは、ということ、早速「山ざる」の名簿と卒業生名簿とでらしあわせながらリスト・アップ、お友達を紹介も加わって計二十三名が関東在住とわかりました。

お陰さまで昨十月二十四日午後五時、東京・京王プラザで十九年ぶりの同窓会と相なりました。

年月のたつのは早いもの、みんな四十近い年令になっていますので、顔がわかるかしらと思ひながら、名簿とアルバム持参の御対面となりました。そのなつかしかったこと、高校時代の思い出話に花が咲き、舌つつみをうちながら時のたつのを忘れてしまうほど楽しいひとときをすごしました。

柏高三十八年卒 片岡（三品）恭子

古稀祝い

遠阪小のクラス会



遠阪小学校のクラス会

春まだ浅い三月二十一日青垣町佐治の建設会館において、古希祝いのクラス会が開かれました。会は十時から始まりましたが、中には三十年ぶり、あるいは卒業以来初めて見る顔もあり、浦島さながらの出会いに懐かしさが込み上げ、胸にじんとするものがありました。いずれも幼い頃の面影を残しているものの、厳しい七十年の風雪に耐えてきた年輪がうかがわれ、感慨ひとしお深いものがありました。このたび集まったのは十四名で病欠が目立ち、やはり年だなぁと思うと共に健康の有難さをしみじみかみしめた次第であります。

話は悪童の頃の思い出や仕事のこと家族の様子など、一杯やりながら尽きることを知らず、幼なじみならではの、肩のこらない和やかなつどいになりました。また今日のためにわざわざ紅白の餅をついてきてくれた友があり、一段とお祝い気分を盛上げてくれました。なお十一月には有馬温泉へ出掛けることに話しがまとまり、これからも遠者で生きがいのある毎日を送るよう励まし合いました。最後に『星影のワルツ』を合唱、友の病氣快復を祈りつつ再会を楽しみに夕方近く別れを

告げました。

今回のクラス会開催については、以前『山ざる』の会員であった足立禎次君に大変お世話をかけました。

同君は青垣町農協組合長として、一〇〇名近い職員の先頭に立ち、農協経営に日夜専念しておられます。(五七・八・八)

古希の春心はずますクラス会

(追記) 有馬には残念ながら行けませんでしたが、クラスメートの老人会長と保育園長の二人が、六月と八月に相次いで亡くなりました。やはり年ですかネ。

つゝがなく古希を迎えて夏祭り

五七・一一・二六

(足立 治)

小谷正雄博士、

東京理科大学長を退任

東京理科大学長小谷正雄博士(柏原)は昭和五十七年七月四日、任期満了を機に退任され、同大学総合研究所顧問として、事務室を

千葉県野田市の同大学野田校舎に移された旨連絡を受けた。なお、連絡先は次の通り。

〒280 野田市山崎東亀山、東京理科大学野田校舎内電〇四七一―二四一―一五〇一

氷上囲碁会記録

毎年数回行ってきた伝統の氷上囲碁会であるが、昭和五十七年度は種々の事情で開催が流れ、ようやく暮れも近い十二月十八日東京代々木の囲碁倶楽部で開催した。常連の堀浦、下中、新島の諸君の顔が見えず淋しい出席者であったが、足立源治五段が見事の対局ぶりを見せて会合を盛りあげ花を添えた。上位五位までに賞品を贈り、そのあと階下の代々木庵に席を移し、本年の忘年を乾杯した。なお、その席には須原清氏も顔を見せてくれた歓談に花を咲かせた。

明年は少なくとも、三、四回は開きたいと考えているので同好の士の参加を切望したい。(松)

なお足立正君は五十七年十二月に日本棋院

から四段位を認定された。おめでとう。

昭和57年12月18日一代々木クラブ

	足立正	渡辺	藤田	足立源	三沢	松山	川畑	前川	坂上	勝負	順位
足立正	—	○	○	×		×	○	×	×	3-4	
渡辺	×	—	○	○	×	×	○	×		3-3	⑤
藤田	×	×	—	○		○	○	×	○	4-3	③
足立源	○	×	×	—	○	○				3-2	④
三沢		○		×	—	○	○	×		3-2	①
松山	○	○	×	×	×	—		×	○	3-4	
川畑	×	×	×	×	×		—	○		1-4	
前川	○	○	○		○	○	×	—	×	5-2	②
坂上	○	×	×			×		○	—	2-3	

ゴルフ同好会報告

山さる12号で再会第1回目の報告をいたしました同好会のその後の活動状況をお知らせいたします。

この会も会員数40余名の大世帯となり、また、昨年の12月3日には回を数えること10回とまことによるこぼしい限りです。

10回大会では足立前会長、西川顧問より寄贈いただきましたカップの取りきり戦を行いました。このあと伴仲新会長より優勝カップを寄贈いただき、新カップをめざして会員一同励んでおります。

今後この会を同好の方々の楽しくそして開催日を持ち望まれる会として永くつづけていきたいと念願しております。

追記 当会は年会費三、〇〇〇円（通信費、雑費）参加会費1回につき五、〇〇〇円（賞品、パーティ費）となっております。開催場所は名門コースを、開催日は平日を原則として運営しております。新



ゴルフ同好会の面々

規に参加希望の方は当会員または下記へ連絡下さい。

郷友会事務局または 足立謙悟
電〇四五—三二—五二九一（昼間）

12号で報告後の最近までの成績（入賞のみ）は次の通りです。

	年月日	場 所	1 位	2 位	3 位	B B
第3回	56/3/31	府中CC	松下文雄	足立謙悟	綾木 健	田中篤郎
第4回	56/6/12	真名CC	松下文雄	伴仲和子	橋爪 忠	足立 正
第5回	56/9/17	300CC	豊嶋幹雄	綾木 健	伴仲和子	杉浦 一
第6回	56/12/9	平塚富士見CC	荻野 武	安波雅朗	綾木 健	田中篤郎
第7回	57/3/18	相模原GC	豊嶋幹雄	広瀬五男	伴仲信次	遠藤邦夫
第8回	57/6/14	横浜CC	岡林逸男	豊嶋幹雄	綾木 健	川畑明光
第9回	57/9/22	袖ヶ浦CC	綾木 健	足立謙悟	岡林逸男	安波雅朗
第10回	57/12/3	霞ヶ関CC	綾木 健	岡林逸男	豊嶋幹雄	井上和三

左から足立三治、西川政一、有田喜一、伴仲信、
次、梶浦浩二郎の長老たち



五七年度総会

昭和五七年度総会は東京浅草の『麦とろ』で別記の五十七名が出席され盛大に開催された。まず、荻野武氏が司令となって開幕、足立氏から会務報告ののち、伴仲会長から足立前会長、渡辺、松山両前副会長、小谷正己財務理事らに対し感謝状の贈呈式を行った。このあと有田名誉会長の発声で乾杯、懇親会に移った。何しろ今日の浅草界隈は郷友会の面々も珍らしいらしく、頻りに若き日の思出話などに花が咲いて賑やかな雰囲気をもりあげた。酒杯の重なるにつれ、発言者も続出、弥次も飛ぶ華やかな光景も現われた。

大阪から初めて参加した大和実業社長岡田一男氏が紹介され、全国一〇店ナイトクラブを経営して注目を浴びている経営ぶりを披露して喝采を拍す場面もあって、総会は最高調に達した。吉住重造氏の提案でデカンショ節を合唱し、盛会裡に散会となった。
五七年度祝寿会・総会出席者順不同・敬称略

左から―福井県東京事務所長、福島同次長、杉本春日町長



祝寿者Ⅱ足立順治 上田鉄太郎 植村章子
来賓Ⅱ杉本喜八郎春日町長 福井源治兵庫県
東京事務所長 福島弘三会次長
会 員Ⅱ伴仲信次 有田喜一 西川政一 小
林武治 足立三治 渡辺金三 村上末吉



五八年初役員会

昭和五八年役員会は二月八日銀座のアサヒホールで午後五時半から開かれた。出席者は西川政一長老を始め二十五名、村上副会長の司会で、例の如く伴仲会長の挨拶、有田名誉会長の丹波の政界の近況を合せての挨拶、西川老。幹杯と続き、そのあと昨秋、TVコーナーで三賞を独占して週刊朝日も大々的に報説されて話題を提供した時の顔田中篤郎君から受賞の喜びを披露して拍手を浴び、また足立徹さんが不自由な身を押して出席されたり、賑やかな会合となった。

当夜の出席者次の通り

有田喜一 上山顯 西川政一 田中篤郎
植村章子 須原清 吉住重造 村上末吉 伴
仲信次 足立誠一 常岡幹彦 谷垣正雄 足
立正 足立徹 坂上勝郎 秋元多美子 西崎
祥 渡辺隆男 足立謙悟 足立和巳 波多洋
三 田中寛 若森敏郎 藤田正雄 松山幸逸

渡辺隆男 梶浦浩二郎 高野康慶 菱田ふ
み子 小谷正巳 吉住重造 林田孝子 足
立謙吾 笹倉郁子 出町京子 植木伍鹿
足立かをる 常岡幹彦 萩野武 田中篤郎
田中寛 須原清 萩野一雄 芦田重秋 藤
田正雄 足立和巳 井本義一 山内隆行
坂上勝郎 大内和三郎 小糸イキ 谷口捷
宮野近 藤尾ちえ子 木村つたえ 鈴木和
栄 村上善英 渡辺貴美子 安原三智子
小田富士夫 小田明子 西山敬次郎 波多
洋三 足立正 松山幸逸
大阪より岡田一男 余田貞雄

(以上五七名)

会費領収報告

(自昭和5857
至昭和5912
121)
201)

◎63〜67年 小林武治◎61〜62年 畑秀夫◎
59〜62年 足立和巳◎58〜62年 小田利江、
常岡幹彦◎60〜61年 坂本重雄◎59〜61年 関
正治、伴仲信次◎57〜61年 大木正徳、梶
原清、田辺輝一郎◎52〜61年 中島義則◎60
年 小谷正雄、田英夫◎59〜60年 橋爪忠、
福島輝子◎58〜60年 植村章子◎56〜60年 秋
山一男、芦田有明、近藤輝雄、鈴木和栄、
高見幸男、原功◎59年 松山幸逸◎58〜59年
秋元多美子、植木英吉、大西俊治◎57〜59
年 小野智恵子、後藤豊次、椿原延二、婦木
一男、藤田かね、前田和彦◎56〜59年 三崎
優造◎55〜59年 江藤美智子◎58年 上田鉄
太郎、上山顯、上山英夫、片山日幹、木村つ
たゑ、栗田節子、児玉安正、須原清、林谷
集、松枝勝、宮本はるゑ◎57〜58年 小野滋
友、梶浦浩二郎、片瀬勝義、北村貞子、久保知
義、久保豊、小糸イキ、正呂地群治、田中さ
ち子、竹林すま子、鶴田宏、田健一、中村正
之、前田武彦◎56〜58年 大岡弘、柏谷進、

前田亘、安田喜代子◎57年〓安達陽一、足立要、足立玉治、足立驥、足立東一郎、足立徹、足立元美、足立一郎、赤松誠司、芦田重秋、芦田垣、天野清子、有田毅、井上陽一生田清弘、池上亘泰、池田弥栄子、石上美茶子、泉睿子、稻沢悌二、岩曾豊明、市原このえ、上田三四二、植田公子、内田泰代、江間時彦、小野勝弘、大石佐代子、大槻作二郎、岡原裕泰、荻野一雄、荻野完二、荻野定一郎、荻野晴一郎、荻野武、加藤信太郎、柿原陽、影山朱実、門脇恵子、河本幸子、木寺照三、菊池武利、久保良雄、久米裕、小谷崇、小谷正巳、古倉克実、近藤田治、近藤敏雄、佐藤公子、斎藤俊一、讃井日出子、下中昭男、菅野きぬゑ、杉浦一、相田広子、勢川武彦、莊克衛、田中寛、田中茂雄、高見修次郎、高見寿子、高見安亮、高野康慶、高橋通也、谷達雄、谷垣博、千葉和子、土田直吉、中井良平、中谷幸雄、永井輝江、羽賀澄代、袴塚節子、東田実、福井謙三、藤田正雄、藤原三郎、藤原ふみ子、堀井隆川、松本金吉、松本源吉、待場康平、村上忠純、村上昇、村上豊、森田淳二郎、森田節子、諸江節子、山内健治、山岸幸子、山崎永子、渡辺金三◎56

〓57年〓磯畑修、小田邦子、織田信勝、木下清史、高橋博子、藤田千治、小西保、◎55〓57年〓足立勲平◎55〓56年〓安達葉子、打田輝一、渡辺隆男、貴美子◎54〓57年〓渡辺政子◎57年〓上嶋一晃、植木一夫、古倉克実

関東氷上郷友会の沿革

本会は明治三十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行なったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌（後の大蔵次官）氏らの奔走はよって結成、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長は田健次郎男爵（元台湾総督）が就任。会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今まで存続し得たことは、先輩各位の郷土愛のたまもので、とくに井上雅二、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏らの功績を逸することはできない。

昭和二八年一月二八日、東京新橋駅樓上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催された、百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、熱っぽい雰囲気、ふるさとやありし世代の苦闘を語る感激の大会となつた。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であつた会長の椅子は織田信次子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれたが、この歴史的大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えた。石橋会長は以来十八年間の長期に亘つて郷友会発展に腐心され、昭和四六年八月、八三歳をもつて逝去された。同年十一月、つるや産業社長足立三治氏を会長に迎えた。足立会長は以来五十六年十月まで十年間に亘つて郷友会の発展に貢献されて来たが、一身上の都合で辞任を申出られ、後任に副会長の伴仲信次氏が選任され、重責を担われることとなつた。

関東氷上郷友会会則

(名稱)

第一条 本会は関東水上郷友会と称する。

(目的)

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

(会員)

第三条 本会は水上郡出身者及び縁故者を会員とする。

(役員)

第四条 本会は左の役員をおく。

名譽会長 一名

顧問 若干名

会長 一名

副会長 若干名

常任理事 若干名

理事 若干名内二名会計担当

監事 二名

(役員の任務)

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。監事は会務及び会計を監査する。顧問は会

長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

(役員を選出)

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

(役員任期)

第七条 役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

(役員報酬)

第八条 本会の役員は総て名譽職とする。

第九条 会議は総会と理事会に分ける。総会は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時総会を開催する。理事会は会長、副会長、

常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(会費)

第十条 本会の会費は年額金一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第十一条 寄附金は理事会の承認により受納する。

(会計報告、会則の改正)

第十二条 本会の会計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、会計報告は十一月の総会において行なう。

本会則の改正は総会の議を経て決定する。

関東水上郷友会役員名

〈名譽会長〉 有田喜一

〈顧問〉 上山頭、西川政一、小谷正雄、小林

武治、足立三治、渡辺金三、松山幸

逸、植村章子

〈会長〉 伴仲信次

〈副会長〉 村上末吉、渡辺隆男

〈監事〉 須原清(留任)、吉住重造

〈理事〉 永井常寛、山中一朗、前田和市、荻

野武、足立正、小谷正己、足立誠

一、木村つた江、常岡幹彦、高見嘉

都司、村上大憲、足立かをる、谷垣

正雄、田英夫、足立徹、上田鉄太

郎、芦田律子、山本清士、坂上勝

朗、小田富士夫、小川晴通、田中篤

郎、下中昭男、秋元多美子、西崎

祥、足立謙悟、芦田重秋、小杉武

生、藤田正雄、若森敏郎、足立和巳

昭和57年度 会計報告書

(自昭和56年10月1日—至昭和57年9月30日)

関東米上郷友会

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,011,193 円	現金110,269円, 定期預金886,760円, 振替貯金14,164円	出版費	865,522 円	“山ざる”13号製作・発送代
会費収入	340,000	205名	通信・印刷費	145,750	総会通知発送代他
広告収入	500,000	60名	消耗品費	1,090	
寄付金	271,000	15名	支払手数料	5,370	
受入手数料	380,000	明治生命代理店, 手数料	総会費	227,880	於番町共済会館
総会会費収入	200,000	40名	長寿祝金	54,000	
雑収入	45,007	預金利息	慶弔費	110,000	有田喜一氏胸像建立祝他
			会議費	12,325	
			繰越金	1,325,263	現金350円, 定期預金 904891 円, 郵便貯金420,022円
合計	2,747,200		合計	2,747,200	

訃報

謹んで御冥福を祈ります

柿原 庸氏（春日・中山）五十六年三月一日

死去

角田弘子さん（多可郡）五十六年二月一日

死去

足立範雄氏（青垣・佐治）五十七年三月一日

死去

菊地頭三氏（青垣・佐治）五十七年三月二日

死去

永井常資氏（柏原・下小倉）当郷友会理事、

五十七年二月死去

駒宮恒吉氏（埼玉県大宮市）昭和十六年から

二〇年まで柏原中学校教師、五十八

年一月二日死去

☆

☆

消息・短信

芦田 確次氏（春日・黒井）本日「山さる」

御恵贈、有難うございました。毎号の文亀先生の素晴らしい表紙画は他では見られない豪華なものですし、内容も充実して御同慶に堪えません。丹波はいま春酣はです。

藤ざかり鳥の睦みをかくすなり

畦秋

安達 葉子さん（旧姓高松 東芦田）「山さる」をお送り下さって丹波をとてなつかしく思います。東京に出て早や二十年余りたちました。お盆には毎年墓参に帰丹致しますが、なかなかつかしい方にはお会する事ができません。（57・5・13）

御長寿のお祝をお受けになる方々がいついつまでもお元気で有る事をお祈り申して居ります。植村（章子）様は亡き伯母（野村千里）のいいお友達です。よろしくお伝え下さい。（57・11・2）

足立和巳氏（青垣・中佐治）昨年九月下旬から今年三月二十五日迄、神戸の六甲から私の家へ家事の手扶けに来て呉れていた家内の母が、淋巴腺癌で四月九日他界してしまいました。家事を手伝ってもらっただけで、十分な孝養が出来なかった事が、夫婦共々悔まれてなりません。が、やって来ると最低三ヶ月、長いと半年は気兼ねせずいて呉れることが多かった事が、せめてもの救いと思っています。家族全員健康多謝。（57・11・1）

足立 治氏（青垣・杉谷）幸い元気で頑張っております。（57・10・19）

つつがなく古希を迎えて夏祭り

足立石蔵氏（春日）お蔭様で元気で動いております。健康に感謝しながら（57・10・20）

足立 敦子さん（柏原）四月に群馬県（館林市）より北上市に、主人の仕事の関係で参りました。初めての冬を迎えるに当り前向きで雪国で暮らしていこうと思っております。（57・11・9）

足立 徹氏(青垣・東芦田)『山ざる』毎々御見事な出来栄えで各位の御努力に敬意を表します。(57・5・15)

足立 由宏氏(青垣)義弟が埼玉県におりますので、水上郷友会に参加させて頂ければありがたいと思います。

千鶴所沢市大字所沢五二五防医大学生宿舍内(五年生) 藤本和幸電〇四二九一九五—一二二—

七月一日に次男が生まれ、妻(邦子—旧姓藤本)は来春まで育休中。家事、育児にと主婦業を楽しんでおる様です。(57・10・21)

有田 喜一氏(水上)毎月一回は必ず通信病院で心電図を撮って貰ったり、血液や尿の検査をして戴いて、主治医の診察を受けて居りますが、御陰様で無事に消光して居ります。(57・10・29)

石田 専太郎氏(春日)五七年十二月からアフリカザイル国キンシャサ三井物産所長を命ぜられ、二、三年は同地に勤務します。種々御世話になりました。帰国後また連絡

いたしますからよろしく。(57・10・28)

井上 庸子さん(水上・成松)今夏、田舎に行つて参りました。昔の姿もだんだんとうすれてきて、淋しい気がいたしました。いつでも心に残る故郷よ!(57・10・26)

井本 義一氏(柏原)約三十年にわたる営業勤務より今年の二月から離れ、北は札幌より西は浜松まで、各営業店の事務検査指導のため出張の明け暮れの昨今です。勤務場所(太陽神戸銀行東京本部考査部)には、毎月最後の一週間しかいない状態です。長男も今春、国立大学へ入学、我が家もやっと落ち着きました。(57・10・28)

泉 睿子さん(旧姓大野 相原)『紅型・創造型染 富貴工房』を始めました。着尺に限らず、洋服地、インテリア、小物等お好きな柄、色にてお染めいたします。一度御覧にいらして下さい。(57・10・19)

上田 讓氏(春日・棚原)十月十日久しぶりに棚原へ墓参のため帰郷致しました。変ら

ないのは三尾山の姿だけ。何と道路といい家並みといい、昔日の面影はなしという変わり様でした。黒井駅もきれいになり、柏中通学時代を思い出し、D51がなつかしく思い出されました。(57・10・18)

植木 伍鹿氏(山南・和田)いつの間にやら正月を迎えれば卒寿・ダイヤモンド結婚式、半寿の祝をやらねどとはやしたてられても、今更何と云う事なし。別段病氣もせず体調頗る良好。庭の大きな古桜二本が道路の上にかぶさり、目下落葉の盛りとて、朝早く起きて近所の門前迄掃いて廻り、庭の掃除と草花の手入れに結構重労働。孫やひ孫の出産や結婚も楽しみで、老妻も八五歳ながら健在。未だ数年は生き延びるつもり。(57・10・19)

植村 章子さん(春日)昨秋で半寿となりました。これからは一日一日を大切に生きて行く念願でございます。

全寿生き なかばは独り寒椿

江藤美智子さん(春日・国領)毎号「山ざ

る」を楽しく拝見させていただきありがとうございます。ごさいました。主人の転勤で広島県三原市（別掲）にまいりました。31年卒の皆様同窓会でお目にかかれて嬉しうございました。またいつの日かお目にかかれる日を楽しみに致しております。

惠本 みよしさん（旧姓瀬川 山南）「山ざる」13号、夢中で読ませていただきました。常岡先生の面展も見せていただきました。（57・5・6）

大内 和三郎氏（青垣・小倉）初めての出席なので楽しみです。顔見知りの人がいらっしやるか、又故郷のなまりなども聞きたいものです。幼馴染の顔もあるかも。なにしろ楽しみです。（57・11・4）

大江 範子さん（旧姓足立 青垣）昨年（五十六年）春より現在まで、長男の結婚、父の死、次男の結婚、初孫の誕生と目まぐるしい一年でございました。今夏は四年ぶりに佐治小学校の同窓会で帰丹し、なつかしい山々をながめ、きれいな空気、美味しいお水と

お米で、あわただしい旅でしたが心洗われる思いでした。（57・10・24）

大岡 弘氏（山南）総会の日には黒ペン友の会が宝塚のグランド・ホテルで開催されるので、その方に出席してソ連の苦勞を共にした戦友達と語り合う予定です。（57・10・21）

荻野 完二氏（山南）古里を出てからもう五十年余がたちました。山つつじ真赤にもゆる古里なつかしなどと駄句って自らをなぐさめています。（57・11・9）

河本 幸子さん（旧姓小谷 相原）「山ざる」を拝見しましてそれぞれの道で頑張っておられる様子、何よりと嬉しく存じております。春休みには母の看病に柏原へ参りましたが、町も年々変っていくようで道路も広く交通も激しくなってきました。

ふる里はやはり遠くにありておもうものなのでしょいか。（57・5・20）

木内 実喜夫氏（青垣）七月の水神祭、八月の地藏盆、十月の秋祭りなど……。もう高

源寺の紅葉も最盛期でしょうか、故郷も遠くなり、年令も増えるばかりです。（57・10・25）

菊池 武利氏（青垣・佐治）いつも（総会に）出席したいと存じておりますが、東京の東部地区は不案内のためと遠いため、つい出にくくなります。

植村章子様にはお目にかかりたいと存じますが、よろしくお伝えください。（57・10・22）

岸部 正巳氏（春日・朝日）健康のため月一回海つりに葉山から出船しています。最近真アジの四十二センチをつりあげました。（57・10・20）

古平 信雄氏（旧姓本庄 柏原）昨年三月末（株）森組東京支店（土建業本社大阪）を退職、余生を無為に過しております。（57・10・18）

小南 順子さん（旧姓長井 青垣）相模原に住みついて十二年、子どもも六年と四年生

の男の子の二人、主婦業とちよつぱりテニスに頑張っています。(57・10・28)

小林 剛氏(市島・北奥) 昨年腹部の大手術をやり九死に一生を得ました。未だ順調とはいえませんが、追ひ追ひ回復すると存じます。乗馬は今のところ休止です。(57・11・6)

河野 征美氏(市島) 東京(横浜)に出て十三年になります。元気で働いて益々故郷の事がなつかしくなります。

佐々木 英雄氏 九十一歳の老齢です。(総会には)出席は出来ません、残念です。老いても病氣はありませんのが何よりです。(57・10・19)

坂上 豊氏(氷上) いつも「山ざる」を楽しみにしております、基会にはいつもおさそいを受けながらなかなか出席できません。機会を見つけて出向きたいと思っております。(57・10・22)

坂本 重雄氏(旧姓中村 柏原) 九月から二ヶ月間在外研究でフィラデルフィアにあるペンシルバニア大学へ客員教授として出かけていました。帰途オマハのネブラスカ大学、カナダのクイーンズ大学を訪問し、日本に帰着しました。まだ留守中の片付けも終らず、当分は荷物の整理におわれそうです。(57・11・3)

篠原 よね子さん(旧姓佐々木 青垣) 刺しゅう教室も大きくなりがんばっております。(57・10・26)

下中 昭男氏(山南) 昨秋、思いもよらず転動になり、東京をはなれることになりました。在京中はいろいろ有難うございました。特に病後は大変お世話になりました。本年もよろしく願います。

〒555 大阪府吹田市千里山東四―24―15
電〇六―133〇―139〇五

須原 清氏(市島・竹田) 「山ざる」13号はよくなりました。素材もよく、料理もよく見栄えもよくなりました。誤字も少なくなり

ました。

去月、西九州と徳山市へ行ってきました。

荘 克衛氏(柏原) 「山ざる」13号拝見。内容益々充実、興味深く存じております。

当方昨年五月「山ざる」12号入手の節、早速為替用紙を以って壹仟円送金し、通信欄に感想を記入して置きました処、13号誌に其の感想は記載してありましたのに、五十六年度入金欄に氏名落ちになっていますので、御手数ながら御取調べ下さい。(57・6・1)

係より申し訳けないことをしました。調べてみます。

荘 正衛氏(柏原) 「山ざる」を楽しく拝見しています。会員の中に何らか関係がありお会いしたい方が居られます。例えば(敬称略) 松山幸逸、梶浦浩二郎、上山顕、松本源吉、織田信和、上田三四二。尚荻野完二、岡田一雄、高桑良弥、最上次郎、小西保、浅田和雄(故)の諸君は、柏中二十二期のクラスメイトです。(57・10・20)

勢川 雅弘氏(山南) 不覚ですが、郷友会

の存在を知りませんでした。次の機会には参加させて頂くつもりです。(57・10・22)

瀬々 妙子さん(旧姓中井 柏原) 郷里を想うのに丁度良い会場ですね。(註)五十七年度総会々場、駒形「むぎとろ」のこと。(57・10・27)

関 正治氏(山南) 総会には出席できませんのでおわびのお印し?までにと「山ざる」誌代金三千円を送金させて頂きます。

高田 美佐子さん(柏原) 来年四月頃フランスのバリ居住(数年間)となりますので、よろしくお願い致します。(57・11・8)

高野 康慶氏 半世紀前相原高等女学校、中学校に在職、当時山深い丹波柏原(オーケストラ演奏を二回、当時名声高かった声楽家品川美奈子さんを招いての演奏会など催しましたこと、小学校の先生方と水上郡音楽研究会を組織、音楽方面で働いた事を憶い出します。毎年卒業生のクラス会で、春秋阪神、山陰、近畿地方へ出かけて居ります。まだ元気

で八十六歳現役。忙しい毎日を通して居ります。

大正十一年から十年間、当時相原高等女学校、柏原中学に在職、水上郡とは無縁の私を郷友会員としていただき、ありがたく存じます。(57・10・23)

高見 嘉都司氏(市島) 毎号楽しみに拝読させて頂いていただいています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。「山ざる」広告料金送らせていただきます。(57・5・17)

高見 安亮氏(春日) 忠勇株式会社三十余年勤務しましたが、この春定年退職致しました。今後ともよろしく願ひします。(57・5・21)

高橋 博子さん(旧姓井本 春日) いろいろな作品を読ませて頂きました。更に庶民的な記事をお願い申し上げます。(57・6・30)

谷垣 美代さん(旧姓松山 春日) 昨年は曾孫に恵まれ、今年は古希を迎えました。人

生も下り坂になってまいりましたが、終着駅に着くまでは健康ですごしたいと念願しております。(57・10・21)

塚口 生郷氏(水上、油利) 家内は六十歳を越えて益々元気で、呑気な毎日を通しております。

二男一女 現在は水戸を離れてそれぞれ勤務先の東京で暮しをしております。(57・10・20)

葛川 てる代さん(旧姓須原 市島) 「山ざる」を通じて郷土出身の皆様の御活躍を知り、陰ながらお喜び致しています。(57・11・14)

常岡 亮氏(柏原・上小倉) 本年はとうとう帰省の機会がなさそうです、尤も、こう毎年毎年国鉄の運賃が値上されては、故郷は益々遠くなる感じが致します。(57・10・27)

東郷 一美氏 長寿のお祝の年令は何歳以上なのですか。将来のためお聞かせ下さい。(57・10・19)

(註) 八十歳にならればお祝いします。

東郷 茂氏(加西市王子町) 来年一月に八十歳になりますが、元気で今は老人クラブの役員として活躍しています。(57・10・26)

徳田 八郎衛氏(柏原)札幌にも案内同郷人が多く、楽しくおつきあいさせてもらっています。関東地方へまた帰りましたら御連絡もしますので、合同の案内等送らないで下さい。休暇でも道門からはまず動けませんので。

(57・10・27)

仲 一聡氏(山南)仙台に勤務して満四年になります。東北地区は十月末に初冠雪があり冬の始まりです。

丹波の秋はいかがでしょうか。皆々様の御健勝をお祈り申し上げます。(57・11・7)

永井 勇氏(市島) 昨年石橋生絲株式会社(元関東水上郷友会々長創立の会社)の第一線を退き現在顧問として在籍。新たにビルメ

ンテナンス会社を設立、第二の人生を頑張っております。(57・10・25)

永井 輝江さん(旧姓坂東 市島・上田) 御皆々様の御骨折のおかげさまで、たのしい会報が出来まして厚く御礼申し上げます。年とする程に「ふるさと」が恋しく、自分でも不思議にくり返し御皆様のお報らせを楽しく拝見致しております。私も昨年十一月に、母の二十五周忌に郷里へお墓まいりしてきました。市島の田舎でございます。何ともいえぬなつかしゅうございました。丹波富士の眺めが大変美しゅうございました。(57・5・8)

葉狩 明子さん(旧姓井本 柏原)ごく普通の生活を何となく過ごさせていた দিয়ে おります。故郷のことも父母が他界してからは、少しずつ遠くへ離れていくような感じがす、いけないことでしょうか。

(57・10・27)

生原 富子さん(旧姓水野 水上・石生) 丹波から上京して二十六年になります。

(57・10・26)

畑 光氏(篠山) 多記郡も水上郡も同じ丹波の国ですから、東京へ出てくれば身内のつもりでおつきあいたいのものです。

(57・11・1)

東田 実氏(山南・上滝) 常岡父子の日本画展に参りました。文亀先生の昔を思い、いろいろ思い出にふけて居りました。また、七月には柏陵同窓会(日生会館)へ卒業以来五十年ぶりに初めて出席し、いろいろ昔のことを思い出し、今年は本当にいい年でした。

(57・8・11)

久安 敏夫氏(柏原) 長いサラリーマン生活を退きまして、目下税理士として修業中です。御支援御指導をお願い致します。不景気のためさっぱり仕事がありません。

(75・10・20)

藤井 宏次氏(黒田庄・善多) 昨年胆石手術等により四ヶ月半休養して、また元気で働いていますが、総会にはあいにく海外出張のため参加出来ません。(57・10・21)

藤原 岩市氏(黒田庄) 十月二十二日には
京都水上郷友会に出席しました。

(57・10・19)

藤原 輝子さん(旧姓土家 春日) 東京に
こんな会があるなんて初めて知りました。田
舎を遠く離れていますので、懐かしく思いま
した。(57・10・21)

松枝 勝氏(市島) 元気に頑張つて居りま
す。名簿の端に生月日を入れて頂ければ、
す、誰々と解りますので、出来れば御願ひ致
します。(57・5・11)

係より スペースの関係上現在のところ
生年までしか収録できません。悪しからず御
諒承ください。

松本 金吉氏(柏原)「山ざる」大変きれ
いで結構ですが、出来れば活字を大きくして
下さい。(57・6・7)

宮崎 浄式氏(氷上) 初めて連絡をいただ
きうれしく思っています、今回は残念ながら
出席出来ませんが、次の機会を楽しみにして

います。(57・11・2)

宮野 近氏(柏原) 励ます会、県人会とい
ずれも参加させていただき感じたことは、会
員のニーズは何か……ということです。年令
のへだたりを感じさせない和気合々の会とし
て発展することを願うものです。

(57・10・19)

村上 豊氏(青垣) 大変残念ではございま
すが、右手首けがをして伏つておりますの
で、今回は欠席させていただきます。

(57・11・4)

最上 次郎氏(美濃郡) 私の第一の勤めは
富士銀行六十二歳まで。そのあと関係会社
(沖電気工業(株)、安田倉庫(株))に七十
二歳まで勤務。勤めがなくなると、さぞ時間
をもてあますことかと想っていました。年
と共に一年が短かく感じられます。まずは無
事消光しています。(57・10・21)

山岸 幸子さん(旧姓細見・氷上) 文亀画
伯の表紙絵をはじめ、特別寄稿の数々、とて

も素晴らしい号だと思えます。宣伝広告の掲載
方法を変えると尚一層良くなるのではないで
しょうか。(57・5・22)

山田 貞子さん(旧姓多田 春日) 関東各
地において多勢の同郷の方々が活躍しておら
れ頼もしく思います、その中、皆様と語りあ
える機会にも恵まれることと期待しつつ、公
私共に励んで参ります。(57・11・1)

吉田 勇司氏(市島・酒梨) 先月から週二
回でOLの人にドイツ語を教えています。二
月に二人目の子供が出来ますが、今後も続け
て行きたいと思っています。(57・10・26)

若森 敏郎氏(山南) 相変わらず本年もフィ
リピン、オーストラリア、ニューカレドニ
ア、などを飛び廻っており、元気にしており
ます。また今年は電源開発株式会社停年の年
に当たりますので、発奮して技術士の試験に
挑戦。来年度より技術士事務所開設の予定で
あります。(57・10・20)

住居表示・職場変更

但し電話番号の変更の
ない場合は省略／敬称略

足立 敦子 〒284北上市有田町五―二 電〇
一九七―六四―〇五〇五

足立 鐘平 〒188国立市東三―一六―二〇
電〇四二五―七五―八〇〇九

足立 真一 〒213川崎市宮前区有馬七―一〇
―一六 電〇四四―八五四―六三四〇
(株) ウインズ 電四九一―二〇九五

足立 高彦 〒210川崎市川崎区日進町二六―
一二 電〇四四―二二―一三七二

足立 元美 〒185葛飾区水元四―一〇―九

足立 由宏 〒181三鷹市牟礼四―一二―一九
日本システムウェア(株)

荻田 信吾 〒380長野市三輪八―五四―一二

電〇二六二―三五―〇二六二 日本電信
電話公社 電〇二六二―二五―二〇七一

井田 悦子(旧姓安田) 〒180足立区六木二―
七―四

池上 亘泰 〒244横浜市区金沢区並木二―六―
九―四〇四 電〇四五―七八五―〇三二〇

池田 計一 〒242大和市西鶴間四―一〇―一
五 極東開発工業(株) 相模工場工務課長

電〇四六二―八六―一三〇〇

石田 専太郎 ザイル国赴任中(〒188港区
芝浦四―四―二七―一四〇四 電四五三―
二六六八)

磯畑 重蔵 〒280―02千葉県君津郡袖ヶ浦町
蔵波二九七八電〇四三八―六三―三六九一

上田 吉明 〒215川崎市麻生区下麻生四五二
―四一

江藤美智子 〒282広島県三原市須波西町七六

五―三二一 電〇八四八―九―二三五一

大江 康嗣 〒214船橋市習志野台八―二〇―
一六 電〇四七四―六七―一八二七

大野 富士夫 〒270松戸市ニツ木二二―二
電〇四七三―四三―七五〇〇

柿木 妙子(旧姓松下) 〒382新座市畑中一―
一一―二一

片瀬 勝彦 〒183足立区梅田町二―一三―二
電八八七―一八五二

木内 実喜夫 〒215川崎市麻生区高石七二―
一一五〇八

木下 清史 〒185国分寺市北町四―一九―二三
電〇四二三―二五―四三七四

木下 昇治 〒272横浜市区緑区霧ヶ丘三―二〇
―一六 電〇四五―九二―一八八五四

岸部 正巳 〒180―12武蔵村山市三ツ藤一―

一〇三一六 電〇四二五—六〇—六五四三

東京都市場衛生検査所武蔵調布出張所長

電〇四二四—八五—〇〇五六

近藤 伊久雄 千208多摩市永山五—三五—三

〇—六—五 電〇四二三—七三—〇四七一

三菱信託銀行本店営業第五部第三課長 電

二二—二二—

近藤 輝雄 千273船橋市丸山三—三一—一

電〇四七四—三九—四八七四

斎藤 陽子(旧姓野村) 千247横浜市戸塚区笠

間町五二—D—三一六 市立桂台小学校

教諭 電〇四五—八九—一八〇〇〇

塩見 みつえ 千189東村山市恩多四—二—六

七 電〇四二三—九五—三七一八

下中 昭男 千504吹田市千里山東四—二四—

一五 電〇六—三三—〇三九〇五 新日本

硝子(株) 電〇六—三八—八—五三四五

直田 正 千146大田区仲池上二—二二—二—

三〇六 電七五三—五八九九

田中 さち子(旧姓浅葉) 千207横須賀市湘南

鷹取五—三八—一四

田辺 泰久(旧名信夫) 千125葛飾区南水元一

—二—九 都立台東病院 電八七四—七

四四—

田村 徳雄 千500豊中市南桜塚四—一—一

〇—二〇六 電〇六—八四—八—七四七五

高橋 節子(旧姓足立) 千132江戸川区東葛西

四—二四—一三

高橋 博子(旧姓井本) 千136江東区東砂三—

三〇—二二 電六四六—二六六〇

谷 敬三 千213川崎市宮前区有馬九—二—三

四 電〇四四—八五—二—〇八六〇

谷川 義男 千90山形市相生町七—四七サン

ボール六日町マンション六〇五 電〇二三

六—二二—三三四四 三井生命山形支社

電〇二三六—二三—三三二五

留守宅 千230横浜市金沢区金利谷町二二三

八—一六〇 電〇四五—七八—四—二九二六

椿原 延二 千213川崎市宮前区宮前平—一—三

—五 宮崎台住宅—二〇六 電〇四四—

八五五—一五三八

田 敏夫 電四六七—四三八六

十倉 博 千306—01茨城県猿島郡三和町諸川

一八七六—四

中倉 豊美(旧姓川 青垣) 千233横浜市港南

区最戸二—六—一三 電〇四五—七一四—

四五—四九

中島 英紀 千55神戸市垂水区神陵台九—一

—二三 電〇七八—二五—一—三三〇—

西垣 秀正 千202狛江市元和泉一—二六—二〇

能勢 次郎 千311—17茨城県行方郡北浦村繁

昌一七八四—三四 電〇二九—一五—〇—

〇一

久石 幸太郎 〒300熊谷市中西一〇一
八 電〇四八五—二三一—五六五 サンド
イッチの店ひさいし 電〇四八五—二四一
七六一九

平山 茂 〒621神戸市中央区葺合字蟬山一
七熊内台セントポリア三〇三 電〇七八
—二四一—四八五〇 上組陸運株式会社
社長 電〇七八—六八一—三六三一

本部 真之 〒280千葉市新田町二六一—二一
グレース二二六〇三

三宅 良夫 〒245横浜市戸塚区弥生台二二
グリーンハイム一〇一五〇一 電〇四五—八
一二—三八八八

森下 千寿子(旧姓塩見) 〒177練馬区南大泉
一—三八—五
山内 健次 〒281千葉市柏台一—二三一—二〇
三

山本 嵩男 〒310水戸市笠原町一—八五—四

山本 憲司 〒213川崎市宮前区有馬九—二—
三鷺沼さくら公園スカイマンション四〇五
電〇四四—八五二—一五八七 株式会社
白樺 電七〇八—一一五一

山本 喜則 〒280千葉市高砂四—三—三一
〇〇一 電〇四七—二七九—〇七四七 西
本貿易株式会社 電二五三—五二二—

余田 功 〒206多摩市鶴牧四—五—五—三〇
三 電〇四二—三—七二—二六八〇

余田 進 電四八四—〇七七九

横谷 淳 〒573枚方市禁野本町二—一—二
四一五 電〇七二—〇一四九—四二五四 大
阪検疫所

吉住 重造 〒213川崎市宮前区宮崎五—五—
三五

渡辺 則幸 〒135江東区猿江一—二〇—五五

田ハイツ三〇一 電六三四—五〇四四

新会員名簿

(敬称略)

赤井 幸子 〒280—02千葉市平山町一九二—
一七

秋山 幸 〒186国立市東三—二—一武石方

市原 このゑ(旧姓芦田 明36 市島町下竹
田) 〒188杉並区下高井戸四—四三—二二伊
藤澄磨方

有田 興司(昭12 水上町) 〒140東京都品川
区北品川三—三—一六—八〇三 電四七—二—
九九六六(株)ネオス勤務 電四三—四—七
八二一

小田 茂(昭16 青垣町) 〒277柏市大青田
三—一—三〇 電〇四七—一—三一—四〇五八
(株)安達商店東京店勤務 電八五一—六
〇五二

岡山 充 (昭10 市島町上垣) 〒349-13 栃木
県下都賀郡藤岡町藤岡三八八-四 電〇
二八二-六二-五四九-一 渡辺製袋藤岡工
場勤務 電〇二八二-六二-三三二-一

金子 宗治郎 〒143 大田区大森西三一-四一
一三さとみ荘二-一 電七六五-七〇五九
東京機械製作所

金子 文子 (旧姓荻野) 〒123 足立区梅島二-
二五-二二 電八八七-七七四六

貴志 典子 (旧姓中西) 〒108 杉並区高円寺北
四-二〇-一二 電三三〇-三六七〇

近藤 朗 〒143 大田区大森西三一-一九-一四
電七六六-三一-九七 東京水産大学

渋谷 敬次 〒171 豊島区南大塚一-三三-一
二

鈴木 恒子 (旧姓由良) 〒227 横浜市戸塚区笠
間町四〇川崎重工大船社宅B-二〇六

炭野 幸雄 〒182 調布市つつじヶ丘四-三神
代団地一五-五〇三 電〇四二四-三三四-
九六三五

勢川 雅弘 (昭6 山南町) 〒236 横浜市金沢
区並木二-六-一三 電〇四五-七八五-
〇七〇六 吳羽化学工業(株) 電六六二-
九六一一

勢川 真澄 同右

田村 正明 (旧姓松本 昭20 多紀郡西紀
町) 〒049-33 北海道山越郡八雲町山崎 田
村牧場 電〇一三七六-八-二四五四

竹内 克行 〒274 船橋市大穴町五九二-四五
電〇四七四-五七-六五一八 クボタ鉄工
船橋工場 電〇四七四-三一-六一一

竹村 紀代子 (昭19) 〒062 札幌市豊平区平岸
二条一四-一-九 電〇一一八四-一-九
一五三

土田 恵一 〒153 目黒区中目黒五-九-一五

平川ビル 電七一九-九一六八 手川製線
(株)

常石 幹江 (市島町) 〒277 小平市喜平町二-
三一陸上自衛隊小平駐とん地婦人自衛官
宿舎 電〇四二三-二二-〇六六一

中川 正光 〒356 川越市今福七〇五 (株)
ニュースター

中村 睦子 〒180 武蔵野市吉祥寺東町二-一
三-六ビラ吉祥寺一〇五

西垣 里子 〒156 世田谷区赤堤四-三八-九
富士見荘二五

根岸 好子 (旧姓若佐) 〒175 板橋区高島平九
一-一七-一三〇二 電九三五-五八九〇

能勢 恵美子 (旧姓高雄) 〒280 千葉市関生町
二八-一-二ファミールハイツ一〇-一五
電〇四七二-五一-三六八四

拝野 勇治 〒338 与野市下落合七-一五 電〇

四八八—三三—〇〇九九 (株) 十字屋足利店

原谷 洋美 〒157杉並区上荻四—一四—四六
電三九〇—七七五八

藤井 豊 (昭13 山南町) 〒270—11我孫子市
つくし野七四—一三—三—二〇五 電〇四
七—八五—二七五二 日本スピンドル製
造 (株) 東京支社 電二七九—四〇五一

藤本 和幸 〒350所沢市所沢五二五防衛医科
大学校学生宿舍 電〇四二九—九五—一二
一一内線二二七八—九

藤原 輝子 (旧姓土家 昭15 春日町) 〒227
横浜市緑区美しが丘二—二七郵政宿舍D—
一〇二 電〇四五—九二—六二四五

堀 博之 (昭17 市島町) 〒302取手市井野五
〇三—五一 電〇二九七—四—三〇—一六
旭化成工業 (株) 電五〇七—二〇五〇
テニス、音楽

前田 武彦 (昭15 春日町 在パラグアイ
国) 〒689—41水上郡春日町黒井 国際協力
事業団、

宮崎 淨式 (昭16 水上町) 〒433浜松市小豆
餅三—二八—一 電〇五三四—三六—九
四六三 本田技研工業 (株) 浜松製作所
電〇五三四—三六—一—一内線二四〇

村岡 卓 (大10 山南町) 〒157杉並区西荻南
二—一八—一七キャッスル西荻七〇三 電
三三四—一八〇九 千代田組五〇三—八—
一一

森本 益夫 (昭11 春日町黒井) 〒106港区六
本木七—五—一住友麻布寮 電四〇—一—七
五八〇

矢持 信行 〒176練馬区大泉学園町二五六〇
一七 電九二三—五五二— マルイト (株)

安富 恵子 (旧姓山本) 〒350—02埼玉県入間
郡鶴ヶ島町藤金八六四—一二

藪内 敏彦 〒136江東区南砂二—三—一—五
三六 電六四九—七〇五九

山根 泰裕 〒144大田区南蒲田二—六—二二
菊原庄2F—一 空港グランドサービス

吉見 真一 〒157世田谷区南鳥山一—三—一
五美ゆき荘二—二

吉田 輝子 (旧姓田中 昭33 春日町黒井)
〒341三郷市彦成三—一四—二〇三 電〇四
八九—五八—四八九八 電子オルガン

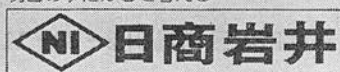
河津 省三 〒153目黒区下目黒二—八—二

岡田 一男 (大正11 春日町) 〒652神戸市東
灘区岡本七—二—一六 電〇七八—四—
一一二二二二 大和実業 (株) 社長



ある国には 資源がいっぱい埋っている
ある国には 技術があるという
また ある国には……………
世界は 別々に豊かさをもっている
日商岩井は そんな1つ1つの豊かさを
結びあわせることで より大きな豊かさを
実らせたいと 考えています

明日のゆたかさを考える



1級建築士事務所

桂建築総合研究所

ビル建築の設計・監理

事務所建築・賃貸ビル・商業ビル・都
市再開発にともなう新築ビル・アパー
ト・マンション・住宅…等の新築ビル
経済性を尊重した優美な設計

株式会社 桂 工 務 店

店舗の内装設計・施工

住宅の新築・改造・増設施工・都市美
観工事にともなう街路・オーニング・
看板・電飾看板等の設計・施工
システム化された近代経営

株式会社 商店建築社

商業建築・建築関係図書出版・月刊誌
商店建築・TAU発行・名作シリーズ・
単行本写真シリーズ…等多数発行

春日町中山出身 村上末吉

住所 東京都世田谷区南烏山2-33-11 TEL 308-8820

建築材料販売工事

建設大臣登録（般）51 第 1834 号

中央建材工業株式会社

取締役 荻 野 武
東京営業所長

（市島町出身）

本 社 名古屋市千種区若水町 3—26
電話 052 (761) 6181番（代表）

東京営業所 東京都中央区銀座 7 丁目 14—3
電話 03 (543) 8106番（代表）

大阪営業所 大阪市西区靱本町 2 丁目 4 番10号
電話 06 (443) 6665番

仙台営業所 仙台市高松 2 丁目 1 番15号
電話 0222 (73) 5724番

◆エレクトロニクスパーツの専門商社◆

株式会社 三 誠

東京都文京区湯島2-24-13 (834) 3171 (代表)



取締役社長 足立 誠一

☆主要取扱メーカー

日本航空電子工業株式会社

多治見無線電機株式会社

株式会社フジソク

日本開閉器工業株式会社

ライン精機株式会社

本多通信工業株式会社

Sonnenschein

杏林堂

[illegible]

Slider® BASEBALL UNIFORMS

あらゆるスポーツウェアのご相談は当社へ

Onaji Mai Mai®

園児服・園児用品
スクールウェア・スクールブラウス

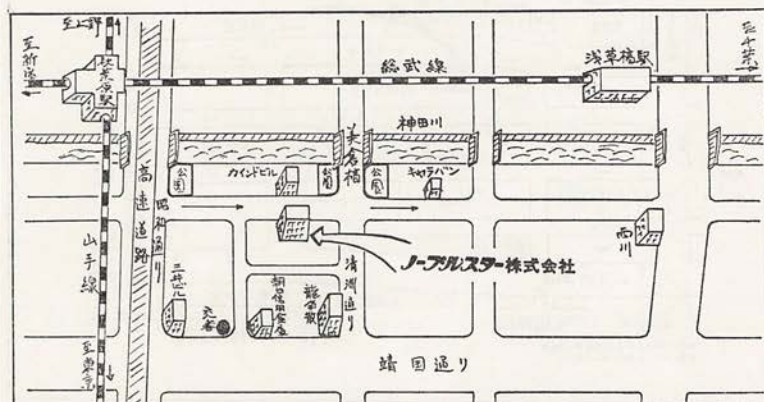
ノーブルスター株式会社

取締役社長 吉住重造

(春日町中山出身)

本社 〒101 東京都千代田区東神田 2-4-7

電話 03 (866) 9121 (代表)



Mataly ユニークな自走機構—溶接前の開先取りに最適！

ハタリー

ハタリーのヨ型鋼開先加工機

1500

おかげ様で、ハタリーの高精度開先加工機の納入実績が、今年2月現在で1500台を突破しました。全国の鉄工所各位がご使用の開先加工機10台につき7台までがハタリー製品です。

ハタリー機販株式会社

代表取締役 古倉克實

〒274 千葉県船橋市習志野台6丁目22-8

Tel 0474-63-9291

埼玉営業所 04947-5-1151

仙台営業所 0222-94-7600 (山喜内)

名古屋営業所/大阪営業所/広島営業所

完全複製 台北・故宮博物院の名蹟

■法書十二件

- ① 晋・王羲之・奉橘三帖(卷)……………定価三〇〇〇〇円
- ② 晋・王羲之・快雪時晴帖(冊)……………定価三〇〇〇〇円
- ③ 唐・孫過庭・書譜(卷)……………定価七〇〇〇〇〇円
- ④ 唐・懷素・自叙帖(卷)……………定価八〇〇〇〇〇円
- ⑤ 宋・蘇軾等・四名家小品(冊)……………定価三六〇〇〇円
- ⑥ 元・趙孟頫・閒居賦(卷)……………定価四〇〇〇〇円
- ⑦ 元・張雨・七言律詩(軸)……………定価四〇〇〇〇円
- ⑧ 明・祝允明・慶誕記(軸)……………定価四三〇〇〇円
- ⑨ 明・文徵明・醉翁亭記(軸)……………定価三六〇〇〇円
- ⑩ 明・董其昌・杜甫詩(軸)……………定価五〇〇〇〇円
- ⑪ 唐・懷素・千金帖(卷)……………定価九〇〇〇〇円
- ⑫ 宋・蘇軾・黃州寒食詩(卷)……………定価五五〇〇〇円

■名画二十件

- ① 唐人・宮樂図(軸)……………定価三〇〇〇円
- ② 五代人・丹楓呦鹿図(軸)……………定価五〇〇〇円
- ③ 宋・范寬・谿山行旅図(軸)……………定価五〇〇〇〇円
- ④ 宋・郭熙・早春図(軸)……………定価一〇〇〇〇〇円
- ⑤ 宋・崔白・雙喜図(軸)……………定価一〇〇〇〇〇円
- ⑥ 宋・米芾・春山瑞松図(軸)……………定価三〇〇〇〇円
- ⑦ 宋・劉松年・羅漢図(軸)……………定価五〇〇〇〇円
- ⑧ 宋・馬遠・雪灘雙鷺図(軸)……………定価三〇〇〇〇円
- ⑨ 元・吳鎮・洞庭漁隱図(軸)……………定価五〇〇〇〇円
- ⑩ 元・王蒙・具区林屋図(軸)……………定価六〇〇〇〇円
- ⑪ 元・倪瓚・容膝齋図(軸)……………定価三〇〇〇〇円
- ⑫ 元・趙孟頫・鵲華秋色図(卷)……………定価五〇〇〇〇円
- ⑬ 元・黃公望・富春山居図(卷)……………定価六〇〇〇〇円
- ⑭ 明・王絃・山亭文会図(軸)……………定価五〇〇〇〇円
- ⑮ 明・沈周・廬山高図(軸)……………定価一〇〇〇〇〇円
- ⑯ 明・唐寅・山路松声図(軸)……………定価一〇〇〇〇〇円
- ⑰ 明・仇英・仙山樓閣図(軸)……………定価四〇〇〇〇円
- ⑱ 明・董其昌・葑涇訪古図(軸)……………定価三〇〇〇〇円
- ⑲ 清・王翬・溪山紅樹図(軸)……………定価四〇〇〇〇円
- ⑳ 清・惲壽平・做倪瓚古木叢篁図(軸)……………定価三〇〇〇円

内容案内呈

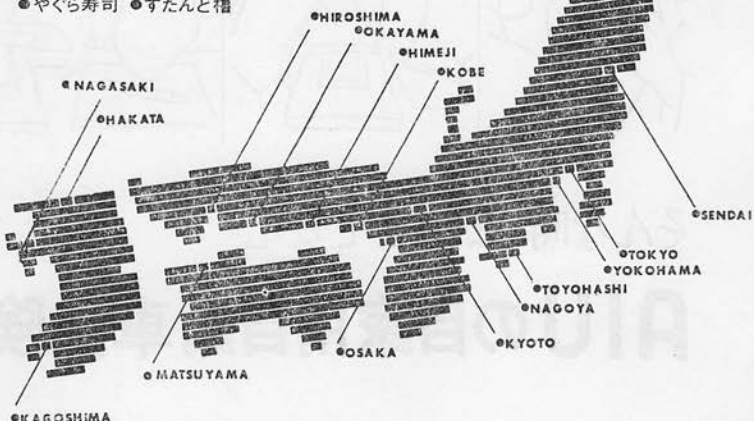


二玄社

東京都千代田区神田神保町2-42/〒101
 振替東京4-28782/電話(03)263-6051(代表)

全国110店舗が鮮やかなナイトライフを揃えています。

- エスカイヤクラブ ●ザ・ロイヤル ●椿茶屋 ●グランドバブ
- ギャルズ ●クラブV.O ●V.Oキューティ
- V.Oローズルーム ●セブントィクラブ ●舞妓
- スイートクラブ ●ザ・トップクラブ
- ザ・トップクラブミュージックサルーン
- ザ・セラーズ ●ラジオシティ ●ザ・ワインバー
- ジェファアソンクラブ ●ブカブカ
- やぐら寿司 ●すたんど椿



先進のエスカイヤクラブを頂点に
圧倒的な魅力と価値を秘めて
日本全国をネットする
大和実業グループ

取締役 社長 岡田一男 (春日町三井庄出)

大和実業グループ 大和実業株式会社

本社／大阪市北区芝田2丁目1-18 西阪急ビル TEL.(06) 372-8571(代)

DAIWA JITSUGYO GROUP

交通事故

もし、あなたが加害者だったら……

水かけ論の
あげく……



仕事中また
電話がくる……



いったい誰に
相談しよう……



そんな時、まかせて安心

AIUの自家用自動車保険

貴方の財産を守る

火災保険から

万一の災害・病気に備えて

生命保険まで

あらゆる保険について お気軽に ご相談ください



代理店 **永愛友商事** 代表者 **KK前田和市**

〒107 東京都港区赤坂 3-1-2 AIUビル 電話585-0740(代)

美味無比 木の实酒

栗の三年酒

くり

さん

ねん

しゆ

この木の实酒「小鼓くりの三年酒」は、純粹の丹波産栗の实、梅の实など山野の木の实を原料として秘醸したもので、常用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を増進します。

ストレートでお飲みいただきますと、さわやかな梅の香りがひろがり、あと口にはコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キット好評です。

◆丹波焼壺詰
◆徳用びん詰

(1、
35 50
00 00
00 00
ml ml ml ml)

小鼓の西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(〇七九五)⑥〇三三二一代

日本海運振興会会長

有 田 喜 一

東京都千代田区平河町二丁目四番
電 話 (二六三) 九四一七番
東京都世田区成城四ノ一ノ一五
電 話 (四八三) 一二〇九番
兵庫県氷上郡氷上町谷村
電 話 〇七九五八(二〇〇〇)八番

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東 海 産 商 株式会社

代表取締役 小 谷 正 己

逗子市逗子 1-6-4

電話 0468. 71. 3075

71. 6449

日本メキシコ協会会長
日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社相談役

西川 政一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ一六
電話 (三九〇) 一三一六番
(寓) 静岡県伊豆高原
電話 〇五五七―五三一―二五六〇番

学校法人国学院大学理事長
国学院高等学校々長
学校法人国学院大学幼児教育専門学校々長
財団法人日本私立大学連盟理事
財団法人私学研修福祉会理事

小林 武治

東京都武蔵野市境南町一―三〇―二〇
電話 〇四二二(三二)四七九六番

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員

老人問題研究所

木村 つた江

東京都調布市東つつじヶ丘2-39-5

電話 東京-(300) 1505番

のびのびベビー・こどものファッション自衛隊

株式会社



本社 〒158 東京都世田谷区瀬田1-22-19

TEL 03-700-3121代表

ファッションセンター 〒158 東京都世田谷区玉川台1-13-12

TEL 03-708-1151代表

代表取締役 山本清士

郷友の皆様 生命保険に加入されるなら
ぜひ当会をご利用ください

明治生命保険相互会社 代理店

ひ か み 会

代表 伴 仲 信 次

東京都千代田区飯田橋2丁目9番 春日建設(株)内
電話・東京 264—4011(代)

城下の面影を残す 奥丹波柏原の宿

山菜料理からアマゴ・ヤマメ・鱒・鯉・鮎・等川魚に始まり
香り高い松茸・丹波牛の肉料理、ボタン鍋



日本観光旅館連盟会員

三 友 楼

兵庫県 氷上郡 柏原町 八幡筋 電話：丹波柏原 (07957) ②1110~2

客室数17室、収容人員60名、駐車場完備、送迎用マイクロバス

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近 藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地
電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

株式会社 三 葉 水 道

代表取締役 橋 爪 忠
(氷上町黒田)

千葉県八千代市八千代台西 7—5—29
電話 0474—84—7121番

松 尾 フ ル ー ツ

上 田 鉄 太 郎

(春日町野山出身)

〒102 東京都千代田区麴町6丁目

(国電四ッ谷駅前)

電話 自宅03 (261)―2830番 店舗 (264)5060―1番

東急建設株式会社

常務取締役

芦 田 重 秋

〒150

東京都渋谷区渋谷一丁目十六番十四号
渋谷地下鉄ビル内
電話東京〇三(四〇六)五一―(大代表)



スカイライン・グロリア・アトラス他
日産車購入については遠慮なくご相談下さい。
お子様の学力向上には公文式の算数・国語教室で

足 立 和 巳

自宅

府中市柴町一―一五―二七
電話(〇四二三) 六四―七二二七

ミワ電気工事株式会社

代表取締役 足 立 謙 悟

〒220

横浜市西区岡野一丁目八番地八号
電話 〇四五(三二二)五二九―番(代表)

明治生命保険相互会社
認定生命保険士

足 立 正

事務所 (〇三) 一六六三一四三二一五
自 宅 (〇四二七) 一二六一八一四九

トヨーサッシ株式会社
東洋サッシ工業株式会社

取締役 足 立 徹

〒100 東京都千代田区内幸町二丁目二番二
電話 (〇三) 五九一一三三八八 (内線五〇二)
直通 (〇三) 五九一一三七六五

アヤキファッショシステム

代表 綾 木 健

東京都港区南青山四ノ八ノ四
パレス南青山二〇二
電話 四〇八一六二三五番

有限会社井上商店

社 長 井 上 和 三

電話 三鷹市深大寺三八〇六
〇四二二一三二一三四八八

植 木 紙 工 所

代表者 植 木 一 夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電話 (八一) 八五七三番

埼玉日産モーター株式会社

取締役社長 大 西 俊 治

本社 与野市上落合九三五番地
電話 〇四八八(59)五一〇三番(代表)

(株) パンオーデイオシステム

代表取締役 岡 林 逸 男

〒 330 大宮市盆栽町五一四(押田ビル)
TEL(〇四八六)六五―三六九四(代表)
〒 167 東京都杉並区善福寺四―八一―九
TEL(〇三)三九四―六八四四

小 田 富 士 夫

丹波興産株式会社

代表取締役 柿 原 陽

〒 150 東京都渋谷区桜丘町三十一番十五号
住友生命渋谷ビル
電話(03)四六四―七七一番(代表)

参議院議員

梶 原 清

日本学士院会員

理学博士 小 谷 正 雄

自宅 東京都大田区山王三ノ三六ノ四
電話東京(七七一)六六五二

銀座店のご案内

丹波ささ山
山家のお酒

さ さ

ざんざ 6―2 あしべビル2F
電話(五七一)四四二三

D・M・S ダイレクト・メール・サービス株式会社

取締役 業務推進本部長 坂上勝朗

本社 〒101 東京都千代田区神田小川町一ノ十一
電話 東京 (293) 二九六一番 (代表)

静岡大学教授

坂本重雄

自宅 静岡市小鹿三丁目四一五 (〒422-0415)
公務員住宅 八一二六
電話 〇五四二 (八二) 八〇五八番

日本舞踊教授

西崎祥

〒223 横浜市港北区大圃町五〇〇一八
電話 (〇四五) 五九一一六六五五
西崎祥舞踊研究所 電話七八一一八六〇三

須原清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話 (三八一) 一六二一番

勢川武彦

〒164 中野区東中野二ノ一七ノ二〇
TEL 三六一一八六七六番

高見産婦人科

医学博士 高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話 (九五六) 〇六〇〇番

高見齒科

高見幸男

〒176 練馬区錦町二一八一三
電話 九三三一六七三一番

谷垣正雄

東京都杉並区高井戸西一―二四一―七
電話 (三三一) 一〇七六番

田中篤郎

株式会社 環境計画コーオペレーション

取締役 谷口捷

〒150 東京都渋谷区道玄坂一―一五―一七
プリメーラ道玄坂ビル八〇四
TEL (〇三) 四七六一―一〇四〇

大菱印刷有限公司

田中寛

〒101 東京都千代田区神田東松下町十
電話 (二五六) 九三五七番

参議院議員

田英夫

東亜国内航空株式会社
整備本部 機体工場 電装整備課

課長 豊島幹雄

〒144 東京都大田区羽田空港一丁目五番三号
電話〇三(七四七)六二一七八番
座席予約受付(七四七)八一一番(代)

中井良平

ザ・カード株式会社

取締役社長 西尾久之

郵便番号一〇四
東京都中央区銀座二丁目四番一号
銀楽ビル七階
電話東京(〇三)五六一八〇〇二番(代表)

黒川木徳証券株式会社

畑秀夫

本社 東京都中央区日本橋一丁目一六―三
電話 東京(〇三)二七八―七八四六番

波多洋三

文京区春日二丁目一七―二
電話(〇三)八一―二八六〇番

株式会社テラモト
東京支店営業部

次長 広瀬五男

〒130 東京都墨田区東駒形一丁目九番二号
電話(〇三)六二四―七九二番(代)

株式会社 スズヤ洋装店
株式会社 イイダスズヤ

取締役社長 村上 豊

電話〇三(七三三)四〇四八・(七五一)四七九八

エイ・エム・ティ株式会社

取締役社長 百木 雅 崇

東京都港区浜松町二ノ三ノ二
フクダビル
電話(四三一)三五五一番

大七証券株式会社

投資顧問部 安田 功

〒103 東京都中央区銀座三丁目一〇番九号
電話 東京(五四五)九一一一(代)

山中 一 朗

227 横浜市緑区美しが丘三十四六一一一
電話(〇四五)九一一一四四九三番

社団法人日本ブラント・技術部
プロジェクトマネジャー

技術士(電気部門) 若 森 敏 郎

〒100 東京都千代田区有楽町一丁目八番一号
日比谷パークビルディング(三階)
電話 東京(213)八五五一番(代表)

名刺広告募集 協賛広告料三千円

川汽企業株式会社

足立勲平

勤務先 東京都港区西新橋虎ノ門高木ビル
電話(五〇四)一一三八一
自宅 藤沢市鵜沼藤谷一七四
電話〇四六六(二二)六四六一

新明和工業株式会社川西モーターサービス
副所長兼商品企画室長

取締役 生田清弘

〒100 東京都千代田区大手町二丁目六番一号
朝日東海ビル十八階
電話(〇三)二四二一一四四一(代)
テレックス二二二二一九〇

日製産業株式会社

取締役社長 大木正徳

〒105 東京都港区西新橋二丁目15番12号
(日立愛宕ビル)
電話(〇三)五〇四一七〇〇二番

株式会社田無ファミリールランド

サウナ店
長 神戸朗

〒188 東京都田無市芝久保町五ノ八ノ二
株式会社田無ゴルフ新宿店電話(〇四)五五五(代)
〒160 東京都新宿区西新宿一ノ六ノ八
河野ビル別館四階・電話(三)五二二(代)

文芸局担当部長(吉川英治全集担当)

小杉仙生

株式会社講談社文芸局
〒112 東京都文京区音羽二一一二二二
電話東京〇三(九四五)大代表一一一一

常岡幹彦

藤 田 正 雄

自宅 〒215 川崎市麻生区王禅寺六七八―四
電話 (〇四四) 九五四―四九五七番

都営八王子霊園・東京霊園正門前

青葉山
真照寺 住職
堀 井 隆 川

〒193 東京都八王子市元八王寺町三一―三三九七
電話 (〇四二六) 六三一八四〇二

エクステリア専門商社
株式会社 大 洋

代表取締役社長
松 下 文 雄

本社 〒351 埼玉県朝霞市膝折三一―七一五
電話 (〇四八四) 六六一―一五五一(代)

松 山 幸 逸
(竹水)

〒171 東京都豊島区西池袋四―八―八
電話 九七一―一五七四三番

株式会社興水タイヤ商会

取締役経理部長
三 宅 良 夫

〒210 川崎市川崎区元木一ノ一ノ一
TEL 〇四四―二三三六三二一(代)

曹 禅 寺 住 職

村 上 大 憲

東京都大田区池上七丁目二二番十号
電話 〇三一七五一―二〇三五番

日本行政書士政治連盟・常任幹事・会計責任者
東京行政書士政治連盟・幹事長
東京都行政書士会理事・業務開発部長

行政書士

畑

光

事務所

東京都港区虎ノ門五丁目八番八号
第三文成ビル三〇二号 電話(〇三)五七五五番
東京都練馬区土支田一丁目五番一九号
電話(〇三)九二五一八七七〇番

自宅

東京国税局 間税部
特別国税調査官

船越祥郎

東京都千代田区大手町一―三―二
電話(〇三)一一六―六八一―
内線二三六〇

動力炉・核燃料開発事業団
総務部長

水船隆昌

〒107 東京都港区赤坂一丁目九番十三号
(三合堂ビル)
電話五八六―三三三―(大代表)

東京トヨベツト株式会社
企画室

課長

宮野

近

東京都渋谷区神泉町二―一番七号
〒一五〇 電話(03)四六七―一二六一番(代表)

ブライダルファッショ
(株)シャルム商会

常務取締役
東京店店長 村

上昇

東京店 〒164 東京都中野区弥生町二―二ノ五
電話(〇三)三七四―〇二一五(代)
本社 〒604 京都市中京区間之町通竹屋町上ル大津町六四五
電話(〇七五)二二二―〇二一五(代)

伊藤忠エレクトロニクス株式会社
営業第三部長代理
国内営業第一課長

部長役 山内隆行

〒150 東京都渋谷区渋谷二丁目一五番一
電話(〇三)四〇六―八三四―
東邦生命ビル27階
TELEX 2427268 CIEFOTOK J

あと がき

・83正月に友人からの年賀状に

長生きも一つの芸や年新たというのがあった。日本もいよく老人天国になる

から、長生きする老人の数が増えるのは当然だが、それらの老人がみな病人ばかりでは困るのである。この友人のように健康で、長生きを楽しんでいる老人ばかりだと、世の中も明るく、長寿天国を祝したくなる。その意味でも、わが祝寿会の存在を高く評価したいと思う。

さて「山ざる」第14号を届けるが、その内容をご覧になってどういう感想を抱かれるや。筆者は郷友の方々が、職場や家庭などで、それ／＼の生き方を誌面に表現されている姿が、まことに多彩で活発で読む者の胸を打つものと感じている。長文のものも、お便りの中に現われている短かい活字の中も生き／＼している。「山ざる」は単なるふるさとの郷愁の文章で飾られている食卓であってはいらないと思う。その意味でもこの号もある程度の目的を果していると自負している。

次号は15号という区切りのいい号でもある

し、会員名簿を添える予定なので、内容も頁数も増えた堂々たる記念号的なものと考えている。ご期待いただくとともに、皆さんからの寄稿を重ねてお待ちする。尚、切りはなるべ年内に届くよう御配慮ありがたい。

春めきて やゝ遠のくや医家の門 竹水

次号の切り！

会誌「山ざる」第15号の切りは昭和五十八年十二月末日です。発行は同五十九年四月の予定です。発行がおくれがちになります。お早めに随想、身辺雑記、紀行、詩文、何でも結構です。お気軽にご寄稿下さい。写真も添えて下さればなお幸いです。

「山ざる」第15号には会員名簿を掲載の予定です
(編集委員会)

山ざる 第14号

昭和五十八年四月二五日印刷
昭和五十八年四月三〇日発行

編集委員

松山幸逸 足立正 坂上勝朗
須原清 常岡幹彦 渡辺隆男
小田富士夫

発行所

関東氷上郷友会

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号
春日建設株式会社内 〒102
TEL 東京〇三(284) 四〇一一番(代)
振替貯金番号 東京 一三三三三〇番
制作 株式会社 二女社

GRUE BONNE 高級婦人服製造卸
つるや産業株式会社

取締役社長 足立三治

東京店 品川区西五反田 7-22-17番地

東京卸売りセンター12階

電話 (03) 494局3285～7番

本社 川崎市中原区新丸子 7 0 1 番地

電話 (044) 722局6371 (代表)

社長室直通 711局3324



町田 杉山神社 昭和57年当社施工

綜合建設業

建設大臣許可第233号

春日建設株式会社

代表取締役 伴 伸 信 次

専務取締役 伴 伸 信 義

東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号・電話東京(264)-4011番(代表)